

別冊 I メイト便り 第 15 号

I メイト 交流の愉しみ

ー アジ風に乗って I メイト 交流はひろがるー

認定 NPO 法人 **アジアの新しい風**

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻 2-18-22-414
TEL/FAX 03-5426-6714 <http://www.npo-asia.org>

2019 年 9 月 21 日 発行

目 次

まえがき ー異文化との出会いで自己啓発ー	理事 上 高子	・・・ 3
----------------------	---------	-------

1. I メイト交流

〈清華大学〉

西澤 逸実 ⇄ 鍾希君	・・・ 4
-------------	-------

畑田緋菜子 ⇄ 張一	・・・ 6
------------	-------

〈タマサート大学〉

坂東 敏弘 ⇄ プラパーホーン・ラビパット	・・・ 8
-----------------------	-------

原谷 洋美 ⇄ プティター・パンタイ	・・・ 10
--------------------	--------

〈貿易大学〉

荒木 春洋 ⇄ マイ・ゴク・アイン	・・・ 12
-------------------	--------

中埜久仁子 ⇄ チャン・ラン・アン	・・・ 14
-------------------	--------

〈パジャジャラン大学〉

伊藤 春雄 ⇄ ムハマト アディティア マルティン	・・・ 16
---------------------------	--------

大橋 典子 ⇄ フェミ ファティラー	・・・ 18
--------------------	--------

〈架け橋グループ〉

小林 玲子 ⇄ 王亜子	・・・ 20
-------------	--------

池浦 正子 ⇄ 孫如琮	・・・ 22
-------------	--------

2. I メイト交流会（小規模グループ）

〈清華大学＋架け橋グループ〉

福山 阿英（元 I メイト学生）	・・・ 24
------------------	--------

周志方（東京工業大学大学院）	・・・ 25
----------------	--------

竇汗青（一橋大学）

〈タマサート大学〉

タサニー・メーターヒスィット先生	・・・ 26
------------------	--------

マンリカー・ポープウン（お茶の水女子大学）	・・・ 27
-----------------------	--------

ジッラダー・ミーセーマー（大阪大学）

〈貿易大学〉

グエン・ティ・タン・アン先生	・・・ 28
----------------	--------

ライ・ティ・シュエン（神戸大学）	・・・ 29
------------------	--------

グエン・ティ・キム・リン（名古屋市立大学）

3. ホストファーザー体験談	・ ・ ・ ・ ・	30
鈴木 一美 (インタビュー：上 高子)		
4. OBOG の声を聞いて	理事 奥山寿子	・ ・ ・ ・ ・ 33
ー日本は外国人に選ばれる国かー		
5. アジ風奨学生になって		
王雋淇 (第三号 清華大学 → 一橋大学大学院)	・ ・ ・ ・ ・	35
ト・アイン・トゥー (第四号 貿易大学 → 神戸大学大学院)		
6. 元 I メイトは今！		
劉詩璇 ⇄ 田代 學	・ ・ ・ ・ ・	36
(清華大学 → 大阪大学 → 清華大学大学院)		
佐山 奈々 ⇄ 坂巻 延子	・ ・ ・ ・ ・	38
(タマサート大学 → (株)神戸製鋼所)		
グエン・タイン・マイ	・ ・ ・ ・ ・	40
(貿易大学 → 東北大学 → 日本システム技術(株))		
馮今 (フォンジン) ⇄ 山田 稔	・ ・ ・ ・ ・	42
(清華大学大学院 → 東京工業大学大学院 → 華潤置地)		
7. 写真で見る 2018 年度の活動		
(1) 第 16 回総会と講演会 (9 月)	・ ・ ・ ・ ・	44
(2) インドネシア訪問 (10 月)	・ ・ ・ ・ ・	45
(3) 清華大学 I メイト交流会 (11 月)	・ ・ ・ ・ ・	46
(4) 西日本地区 I メイト交流会 (12 月)	・ ・ ・ ・ ・	47
(5) 新春交流会 (2 月)	・ ・ ・ ・ ・	48
(6) タマサート大学交流会 (4 月)	・ ・ ・ ・ ・	49
(7) 貿易大学交流会 (4 月)	・ ・ ・ ・ ・	50
(8) 清華大学訪問 (5 月)	・ ・ ・ ・ ・	51
(9) 西日本地区 I メイト交流会 (6 月)	・ ・ ・ ・ ・	52
(10) I メイト勉強会：東京 (6 月)、西日本 (7 月)	・ ・ ・ ・ ・	53
編集後記	吉田 哲 原谷洋美	・ ・ ・ ・ ・ 54

*掲載名は敬称略とさせていただきます

まえがき ―異文化との出会いで自己啓発―

歳をとると過去を振り返る時間が増える。去年東京工業大学大学院へ留学したフォンジンさんの日本留学体験の記（＊ P42 参照）を読んで、一昔前 50 歳の私がアメリカで体験したことを思い出した。国際交流基金交換プログラムで一年間インディアナ州へ派遣され、社会人に日本語を教えた経験だ。

その時の体験を『子育てのあとアメリカがあった』（主婦の友社）で書いたが、このたび読み返し、この体験がアジアの新しい風を立ち上げる動機のひとつになったことをはっきり思い出した。

ホームステイ先の未亡人・ルビーは私を近所の3軒の老人たちに紹介してくれたので、最近メディアでよく取り上げられる保守的な中西部の白人社会を垣間見ることができた。夕刻、ブリーズウエイと呼ぶ風通しのよい石畳の空間に、思い思いに背もたれ椅子に腰かけて、老人たちは世情の話をする。私の存在を意識して英語をゆっくり分かり易く話してくれる配慮がうれしい。ある日、80 歳台の老女アリシアが「タカコ、アメリカは何でこんなに落ちぶれたのか」と問うた。アメリカのさまざまな問題・犯罪や貧困、麻薬、未婚の母、人種問題などは黒人奴隷制に端を発していると認め上で、「私たち白人は遠い祖先がした黒人奴隷制度にいまだにツケを払わなければならないのかしら」。

私は、日本もアジアの国々と同じ歴史問題を抱えていること、直接の加害者でなくても、優位な立場にいた者は弱い立場の人々から知らず知らずに搾取してきたために、いつかツケが回ってくる、加害を忘れない側と、いつまでも被害感情を募らせる側には、大きなギャップがある、と答えた。そういう視点で考えるようになった自分の成長はこの一年間に培われたと思うし、私の存在が、白人の老人たちに自分の姿を鏡に映す、というきっかけを作ったことを誇りに思った。

昨夏、インディアナへ 91 歳になったルビーを訪ねたら、当時日本語を教えた学生たちが集まってくれた。共和党色が濃いインディアナで、「アメリカファーストを言い募る現政権に反対」の彼らは、もともと日本語に興味を持つリベラルな人々ではあったけれども、「私の存在が草の根の相互理解に役立った」と確信させてくれた旅だった。

フォンジンさんは言う。「・・・その違いを認めて、知らなかった知識を身につけて、もっと遠くを眺めて、新しい自分になって行きます。それこそ留学する事の重要な価値のひとつ・・・留学の最も楽しみな事です」と。留学生にこのような気づきを与えることができる I メイトでありたい、また自分自身も気づきを得て、この歳になっても新しくなりたい、と願う。

最後に、交流の実例を寄稿してくださった方々に、深くお礼を申し上げます。なかでも、学生会員畑田さんの交流（＊ P6 参照）は新しい風を吹き込んでくれて感謝です。

I メイト交流担当理事 上 高子

1. Iメイト交流

向学心に溢れる I メイト

西澤 逸実

私の I メイト・清華大学日本語学科の鍾希君さんとは、昨年 11 月から交流を始めました。会員になったばかりで、I メイト交流についても、よくわからなかったのですが、好きなサッカーチームが同じということで、親近感を覚え、スタートしました。日本の文化やサッカーの話など気楽に話題を考えていたのですが、最初の問いは「日本の元号について意見を伺いたい」という直球勝負でした。そこから、毎回のメールの質問に答えるための図書館通いが始まりました。

日本の古典や文学、歴史など、様々なテーマで、自分の意見を述べてくる鍾さんに啓発されるように、それまでの図書館定番コーナーであった欧米の小説棚などから離れ、高校時代以来ご無沙汰の日本の古典本などを手に取るようになりました。新たな刺激を頂けたのは、I メイト交流の嬉しい副産物ですね。鍾さんは、今年の 9 月から慶応義塾大学に留学が決まりました。日本滞在時には、肌感覚で「日本という国の過去・現在・未来」を感じ取ってもらいたく、少しでも鍾さんのお役にたてればと、今から楽しみにしています。

I メイトと迎えた「令和」

鍾希君

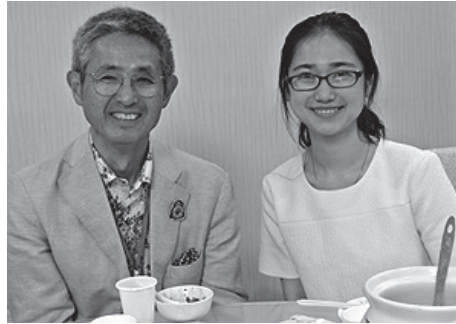
時間が経つのは早く、西澤さんとのメールはもう半年になります。西澤さんと一緒に平成の次の元号の予想もしました。そして、いよいよ令和幕開けの日が来ました。その日、西澤さんから新元号に関するメールと写真をいただきました。遠く離れた I メイトと一緒に、「平成」の閉幕と「令和」という新たな時代を迎えることができました。

I メイト申込書のなかでマンチェスターユナイテッドのファンとのかき、西澤さんもプレミアリーグをテレビで見るのが好きとの縁で、メールのやりとりが長く続いています。私は日本文学に強い興味を持っているので、三通目のメールからは日本文学についての感想を交換しました。西澤さんはいつも真剣に資料を調べてくれたり、本を探してくれたりしています。そのおかげで、日本文学に対するイメージが変わってきました。

西澤さんの励ましのおかげで、図書館に頻繁に足を運び、日本の文学や歴史などに関する書籍をたくさん読み、日本に関する知識を身につけてきました。書物に書いてある知識は現地に行かなくても語学能力さえあれば習得できるものなのです。しかし、西澤さんとの交流を深めつつ、ある社会を理解するためには自ら経験することがとても重要だとしみじみ感じました。そのため、来学期は慶応義塾大学で日本語を勉強する一方、文学や政治経済の授業も聴講したいと思います。日本で新たな留学生活が始まり、西澤さんともお会いできることを楽しみにしています。

西澤さん → 鍾希君さん 2019 年 4 月 1 日

こんにちは。今日、ご存じのように新元号「令和」が決まりました。出典は、日本最古の和歌集『万葉集』です。日本の元号は、これまで中国の古典・漢籍から引用されていましたが、今回の新元号は初めて日本の古典である万葉集から引用されました。でも、序文のなかに、中国との交流を示す内容が含まれており、当時の日本と貴国・中国との深い関係性が反映した新元号であると、私は考えています。これからの新時代においても、貴国との平和な交流が続くことを望みたいものです。



鍾希君さん → 西澤さん 4 月 8 日

こんにちは。元号を発表するとき、私たち日本語学科の学生達は日本語文法という授業を受けていますが、授業を止めて、みんな盛り上がりながら菅義偉官房長官の発表を見ていました。「令和」の出典話題が活発に議論されていました。日本の古典文学は中国の影響を大きく受けたかもしれません。たとえば白居易の『白氏文集』は日本文学にたいへん大きな影響を与えました。だから、私は文学における日中関係を考えなければならないと思います。

西澤さん → 鍾希君さん 4 月 16 日

元号についての感想、ありがとう。古代の貴族などは教養として、中国の古典を学んでいました。ですから日本の文学に大きな影響を与えました。是非、その事を研究テーマにして、教えてくださいね。

鍾希君さん → 西澤さん 4 月 28 日

お久しぶりです。百花咲き誇る春らんまんの日に、やわらかな春風を頬に感じ、心華やぐ頃になりました。元号の出典の話の後、日本の古典に中国の詩と古文の影響を及ぼしたことがわかりました。しかし、明治時代にはたくさんの和製漢語が日本で作られ、その漢語を中国が取り入れました。中日両国は一衣帯水の隣国であり、二千年にわたる友好往来と文化交流の長い伝統をもっていることが深く理解できます。

初めての I メイト

畑田 緋菜子



私は I メイトである張一さんと、昨年の 11 月からやりとりをしています。張さんと私は同じ年なので、学校の話、日本の文化の話だけでなく、同じ趣味の話を共有できることも楽しみの 1 つです。なにより大学で学んでいる日本語教育の授業が活かされていると感じることが多く、この活動にやりがいを感じています。授業の中で誤用訂正の方法もいくつかあることを知り、私と張さんとの間ではどの方法が適しているか、と試行錯誤する毎日です。

学校で学べないカジュアルな口調について学びたい、とのことなので、歳も近い私達はタメ口でメールのやりとりをしています。かといって失礼な言葉遣いをあちらに教えてはいけませんから、タメ口はタメ口でも、相手を不快にさせない表現を使います。私も毎回送信するたびに自分の日本語をかならず見直しますので、来年就職活動を控えた身としては、自分の言葉を見直すというとても良い機会を頂いていると実感します。

お互い忙しい日々を送っていますが、このメールのやりとりが二人にきっと良い影響を与え続けられることができます。いつか二人で会えたらいいな、なんて近ごろ思っています。これからもずっとやりとりを続けていきたいです。

親しい友達になっている感じ

張 一

畑田 緋菜子さんとの交流を通して、日本語でコミュニケーションを取ることができる喜びを味わうとともに、日本語を学び日本に興味を持っているようになっていく！

おかげで、大変勉強になりました。それと同時に、中国のことについてもいろいろと交流して、そういう文化交流って意味もあると思う。

学生同士だから、自分の悩みや喜びや全部相手にわかってもらえることにほんとにうれしい！さらに、畑田さんはとってもいい人で、同じ興味を持っていて、まだ会っていないのに、親しい友達になっているという感じがする！

I メイトは初めてなので、そんなに楽しいことになれることは思っていなかった。今後たくさんのやり取りをしてみよう！



張一さん → 畑田さん 2018 年 11 月 25 日

料理を作るってすごい！羨ましいなあ、ずっといつか料理についていろいろ稽古をしたい！休みの間家でたまにケーキとかパンとか作っているん～手作りのパンはもっとおいしくなるでしょう！（´・ω・`）でもまだ下手です、食べられる程度です～全然売れない（´ω`）

余裕があるなら返信したほうがいい、無理しないでね～

毎日、ご返事を楽しみにしていても嬉しい～ ε ٩(๑> 3 <) 9 3

畑田さん → 張一さん

まだすごく美味しい料理は作れたことがないけど……、

いつか美味しい料理を作りたい！

そのためには毎日じゃなくても、できる時にコツコツ作ることが大切だよな（´ω`）！

張さんも出来る時に無理せずお返事してね！

お返事お待ちしていまーす！（*´艸`）

畑田さん → 張一さん 2019 年 5 月 2 日～ 18 日

ほんとに子供の頃は楽だったなあ～

DS やって、友達とお菓子食べながら遊んで、家族とゆっくり話して…今思えばとてつもなく幸せな時間を過ごせてた。

あの頃はそれが当たり前で、幸せだって自覚なかったけど。

張一さん → 畑田さん

そうだね。楽しい時間はいつも早くなくなる。あの頃はそれが当たり前なものに扱って、大切にするという自覚なかった。みんなそうだろうね。

あのね、ゴールデンウィークの時、NCT についていろいろなビデオを見た！舞台とか VLIVE とか、やっぱり面白い人たちねえ！（´∀`）でも、人数はちょっと多くて、まだ全員覚えてない…歌も好き！

畑田さん → 張一さん

おー！！ NCT の色んなビデオ見たのね！❤

かっこいいし、面白いし、ダンスも歌も素敵だよな～！！わたしも VLIVE 見たよ～！

本当に NCT って人数多いよね！？！（笑）

最初は誰が誰かわからなかった……。今では見分けられるようになってきたけど、全員覚えるのには時間かかったなあ～

張一さん → 畑田さん

返信を待っている間に、たくさんの NCT ビデオや芸能番組を見たよ！全員の顔と名前全部正しく覚えるようになる！自信ある！

本当にかっこいいね！人が多いので、魅力も異なっているし、面白い！

好きこそ物の上手なれ

坂東 敏弘

プラパーポーン・ラピパットさん（愛称ラピさん）とのIメイト交流は2016年9月から始まりました。ラピさん、オンラインゲームをきっかけに日本語の独学を始め、やがてもっとしっかり勉強したい想いが強くなったそうです。

「好きこそ物の上手なれ」と言う諺がありますが、彼女にぴったりの言葉です。メールの添削は受信メールをワードファイルに貼り、校閲機能を使い細かく添削して返却しています。最初は少し怪しげな「てにをは」の文章がありましたが、1年も経つと直す箇所が激減しました。これは間違いなくラピさんの努力の結果です。メールでは、ふるさとの話、気候の話、熱中症や花粉症といった日本特有の話題や日本で報道されたタイのトピックスなど様々な話題で交流してきました。

2018年9月から1年間、ラピさんは東京外国語大学に日本語文化研究留学生として留学しました。今年4月に開かれたタマサート大学の交流会では和服を着たり、生け花をしたりして日本の伝統文化を肌で感じました。交流会後の親睦会で聞いたラピさんの素晴らしい歌声に参加者一同本当に驚きました。目を瞑ればまるで日本人が歌っているようでした。



ラピさんの日本語好き、そして日本が大好きという気持ちをこれからもサポートしてあげてくれることを願っています。

素敵な出会いと貴重な経験に感謝！

プラパーポーン・ラピパット

2016年9月、大学1年生の時タサニー先生の紹介で「アジ風」のことを知りました。そこで、アジ風のIメイト活動を通して坂東さんに出会いました。

坂東さんとの出会いは私の「日本語のターニングポイント」となりました。なぜかというところはタマサート大学に入学する前からずっと独学で勉強していましたが、その時で来た日本人の友達達は皆若者だったので身につけた日本語は若者の言葉で普通の日本語とは少し違っていました。初めて坂東さんに送ったメールをいま読み直してみると、なんだか凄く恥ずかしく感じます。なんとお友達に話すような話し言葉ばかりでした。こんなメールでは坂東さんに申し訳ないと思ってしまいました。

しかし、毎月のメールのやり取りを通し、いつの間にか自分の言葉使いが以前より明らかに良くなっていると感じています。全ては坂東さんのお陰です。千文字余りある私のメールを毎回添削して下さい、なぜ間違っているか、その言葉の正しい使い方までしっかり添削してくださいました。また、交流を通し私を支えてくれる両親のことや、自分の国のことなど私の回りのことについて色々と考えさせられました。

今は感謝の気持ちでいっぱいです。坂東さんとのIメイト交流は人生の本当に貴重な機会となりました。

坂東さん → ラピさん

2019 年 2 月 14 日

今日は水泳の池江璃花子選手のことを書きます。「昨年のアジア大会で 6 冠に輝き、来年の東京オリンピックで大活躍が期待されている 18 歳の女子水泳選手が突然白血病と診断され、これから闘病生活に入る」という話です。

白血病は不治の病と言われていた過去もありましたが、現在は新しい治療法が開発され適切な治療を行えば治るとされており、池江選手を心から応援したいと思います。人生、いつ、何が起きるか予測ができません。私たちができることは、日々普通に生活ができることに感謝し、普段の生活を大切にすることですね。

ラピさん → 坂東さん

3 月 3 日

前回のメールを添削して頂き、どうもありがとうございました。今回も表現や、言葉の選択のことなど色々勉強になりました。

池江選手のことは知らなかったです。坂東さんのメールを読んで驚きました。なんだか悲しい知らせですね。彼女について色々なニュースを見ると、とても精神力の強い人だと思います。池江選手ならきっと病に勝って再び水泳の世界に戻ることができるでしょう。周りからの応援と、彼女自身の不屈の精神がとても大事だと思います。今の医学を信じ、彼女の治療が上手くいくことを祈ります。

坂東さん → ラピさん

3 月 7 日

寒かった冬もようやく終わろうとしていますね。間もなく桜の季節、桜の花が盛りの中にはあちこちでお花見をしている様子を見ることがあるかもしれません。日本人は本当に桜が好きです。桜の花は一気に満開になり、パッと散ってしまいます。この潔さ（いさぎよさ）、言葉の意味として「清らかである、汚れがない」、「すがすがしい、未練がない」、等の意味があり、この意味からして何となく日本人の心理にあっていると言われています。そんな難しいことは考えなくても、咲き誇る桜の花を見ると心が和む（なごむ）ことは間違いありません。

ラピさん → 坂東さん

3 月 19 日

桜の中でも色々な種類があることは知りませんでした！確かに人間のようなですね。とてもいい例え方だと感じました。冬が終わり、桜が咲く季節に入りましたね。初めてののお花見がとても楽しみです！

今、花粉症で困っているようですね。ヨーグルトと林檎を沢山食べてみてください。この二つの食べ物は免疫力を高めるので、花粉症対策食品としてとても人気だそうです。ところで私も最近体調があまり優れず、よくめまいを感じています。しかし、これは花粉症ではなく、単なる風邪だと思います。今のところ、花粉症アレルギーの症状は全くないです。タイの空気で 22 年間体を鍛えていたお陰かもしれません。タイでは、花粉症になる人が少なく、報道や日常の話題にすらなりません。

メールの最後に親しさの秘密

原谷 洋美

打てば響くと言える友人はさほど多くはないですが、明治学院大学に留学中のプティター・パンタイさん、愛称ぷーちゃんはその中の貴重な若き一人です。交流を始めて以来、思わぬ返信にびっくりしたり、期待通りの内容に嬉しくなったりと、年の差を全く感じずにまるで旧知の間柄のようです。

「今夜のお月さんは暈（かさ＝月の回りの虹のような輪）をかぶっていますよ。天気が下り坂になる前触れです。窓から覗いてみてください」には「この前の月を見ました。暈があって素敵でしたね。見た時遅かったので、月遠いなあって感じでした。七時頃みればもっと奇麗だと思いました」と二日後の返信です。

五月一日には「令和の始まりのごあいさつです。なんとなくドキドキします。毎日雨ばかりなんですけど、イタズラって感じです」とメールが届きました。ぷーちゃんの＜イタズラって感じ＞はほんとうにその通りだと返信し、その瑞々しく面白い感性に魅せられました。



日本の四季折々と、季節を丁寧に取り入れた日常生活を伝えることで、異文化と心のバトンを渡せるのではないかと思います。「髪の毛をカットして軽くなったひろみさんです」「ぷーちゃんも髪をカットしたいです」と必ず次に繋がる挨拶で終わるのも嬉しいことです。

家にいるかのように落ち着きました

プティター・パンタイ

日本人とメールで話したり、交流したりするのは初めてでした。Iメイト交流に応募してからワクワクして、どんな方か、何を話そうか、私のメールを読むとどうなるか等、色々考えました。やがて洋美さんから最初のメールが来てドキドキしながら読むと、暖かさを感じました。私は最初の自己紹介、家族、趣味などの簡単なメールを書くだけで、よほど時間がかかりました。しかし、だんだん楽しくなって、時間がかかるというより、時間を忘れるほどメールを読んだり、書いたりしました。何かを見つければ、どこかに行けば、そのことを洋美さんに話したいと思っていました。洋美さんが教えてくださった日本の言葉、季節、文化、短歌、その日にしたことなどはとても面白かったです。シンプルなことを大切に見ていて、メールで書いてくださるのも、私は嬉しく思います。

留学中、来日の歓迎食事会や、秋のおはぎやお月見団子作り、日本のお正月、ミュージアムへ一緒に行くことや着物を着て散歩など、たくさんの体験が出来て感謝しています。

海外にいても、家にいるかのように落ち着きました。このようなめぐり合いはとても奇跡的なもので大好きです。これからもワクワクする交流ができることを願っています。

プティターさん → ひろみさん

2018 年 12 月 31 日

年末なのに、これからレポートと宿題が待っています。今回の日本語の授業の読み物は村上春樹の『4月のある晴れた朝に 100%の女の子に出会うことについて』です。タイでの授業に読んだことがあります、再び読むのも違う感じがするかもしれませんね。

プレゼンのこと、私の質問です。「日本でのカルチャーショック」の課題に、「また」が2つありますがよくわかりません。もしこのテーマを選んだら、公衆ごみ箱が少ないことで、そのショックを克服するため、ごみを分ける習慣、責任を持てるようになる、ごみを減らす ことを話したいと思います。

私は最初、カルチャーショックのテーマを話すと、日本人の会員を悪い気持ちにさせるかと心配していました。しかし、私の意思はそういうものではないので、ちゃんと言葉を使えば、伝えられるかなと思いました。

また、「10年後の私の姿」をテーマに選ぶと、たぶん自分がタイ語—日本語の通訳で、教師になることです。(AI) 人工知能のこととか人間に代わるかもしれませんが、AI がない人間関係や、想像力、人間との感情などで仕事をしたい、などのことを考えました。今日は今年の最後の日ですね。今夜、一年中のあったこと色々考えて、テレビを見て、友達と話して、新年に迎えようと思います。

日本のお正月体験を楽しみしてるぷーちゃん

ひろみさん → プティターさん

2019 年 1 月 5 日

お昼間は暖かですね。小春の日和と言いますよ。

プレゼンに関して、しっかりじっくり考えて素晴らしいです。課題にある「また」ですが、一つ目のまたはその上に、2つ目のまたは更にもう一つ、と畳みかけています。話題としては、3つになりますね。一つに絞ることを薦めます。

ごみのテーマはとても着眼点が良いと思います。そして、自分達が行う小さなごみ処理が地球環境にまで及ぶこと、など話題を雄大にするといいですね。率直な感想が一番、人の心を惹き付けますよ。ごみ問題に、人間とAIの攻防などを関連させるのも面白いのではないかしら。

村上春樹の本、ひろみさんも読んでみました。読後感を書いてみますね。

★「エトピリカの切手を貼ればまだ書かぬ葉書は北のエトピリカ宛」

小島ゆかりさんのこの短歌のように、彼女が持っていた白い封筒に切手を貼れば、それがひょっとすると昔々の少年宛であれば、僕の内省のつぶやきはどう変わっていくだろう。100%は有り得ない大きな数値であり、存在であり、かえって不安になる要素である。温かい秘密を求める僕がワープ出来ぬ少し悲しい話に薔薇の花の速達用の切手を貼ってみたい。★

一緒に過ごすお正月と素晴らしいプレゼンが楽しみなひろみさんです。

早く会いたい I メイト

荒木 春洋

マイ・ゴク・アインさんとの I メイト交流が始まったのは 2018 年の 11 月。まだ半年ちょっとのお付き合いですが、気持ちは随分近くなりました。アジ風理事で貿易大 I メイトコーディネーターの島村さんから、希望者リストに 2 名の学生さんが残っているのうち 1 名を選んで I メイト交流を始めませんかと誘われたのがきっかけでした。それでアインさんを選びメールを出すとすぐに返事が来ました。友人たちの相手が次々決まっていくのに自分は…という思いが強かったのでしょう、文面から喜びが素直に伝わって来ました。私も嬉しかったです。



それ以降お互いの負担を少なくするため、2 週間に 1 回の返信ルールを決め、大体そのペースで楽しく交流を続けています。お互いの家族の紹介や写真の交換などを通じて大分親しくなったように思います。毎回メールの文章の文法や表現の仕方などを割りと細かく添削していますが、とても勉強熱心な人なので今後の日本語のレベルアップが楽しみです。アインさんには日本留学の夢があるので、是非その夢が実現するように応援していきたい。そして、何よりも早くアインさんに会いたいです。

I メイト交流を始めてよかった

マイ・ゴク・アイン



私が荒木さんとメール交流を始めてから約半年になりました。最初、アジ風の I メイト交流に参加するのを決めてから本当に心配しました。そのころ日本語が大変苦手だったからです。でも、荒木さんから初めてメールをもらった時、私はとても嬉しかったです。荒木さんのメールは全部簡単な言葉で書かれていましたが、私は辞書で調べたり、メールの返事を書くのに時間がかかりました。あるメールは 3 日かかりで完成しました。ちょっと大変ですが、いつも楽しさを

感じます。

荒木さんはいつも私のメールの間違いを訂正し詳しく説明してくれて、本当にありがたいです。また、日本語の文法だけじゃなくて、日本の伝統的な文化や生活や観光地などいろいろ教えてくれて、私は日本についてよく分るようになりました。日本語は難しいですが、荒木さんに「頑張って！」と言われて感動しました。荒木さんは優しい友達のように悩みごとを聞き入れて、アドバイスを言ってくれて心から感謝しています。荒木さんと話す機会をくれた「アジアの新しい風」の皆さん、ありがとうございました。

荒木さん → アインさん 2019 年 1 月 1 日

2019 年の新年明けましておめでとうございます。今年がアインさんにとって素晴らしい一年になりますように！アインさんとアジ風の I メイトになれたことをとても喜んでます。これからもいっぱいメール交換をして仲良くなりましょう！今年もよろしくお願いします。我が家はマンション暮らしなので、「床の間（とこのま）」は小さいのですが、何とか日本のお正月らしい雰囲気です。

※「床の間」～ごめん。ネットで調べてね。



アインさん → 荒木さん 1 月 10 日

お正月の休みはどうでしたか。私と家族はおかげさまで皆元気です。ありがとうございます。日本と違って、ベトナムでは陰暦の元旦（ベトナム語でテトと言います）が一番大切な年中行事です。テトでしかない伝統的な行事もあって長い休みがあります。日本では陰暦の元旦に何をしますか。教えてください。私は、この前まで試験がいくつもありストレスが大分あって、メールの返事が遅くなりました。すみません。

荒木さん → アインさん 1 月 31 日

「アジ風新聞」の最新号に私たち夫婦の記事が掲載されているので送ります。昨年 10 月にインドネシアを訪問した時の写真とインドネシアの留学生（現在日本の立教大学に留学中。2/8 に帰国予定です。）のナディアさんのことが載っています。私の I メイトはアインさんが三人目ですが、これまでの二人の学生さんは（貿易大の先輩のチャンさんとナディアさん）は二人とも大学の日本語スピーチコンテストに優勝して日本留学の夢をかなえました。アインさんもぜひ勉強して日本に留学してください。応援します。待っていますよ！

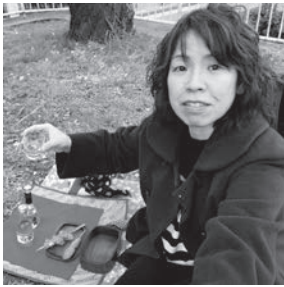
アインさん → 荒木さん 2 月 18 日

テトの休みがもう終わってしまいました。今週から大学に行っています。ところで、「アジ風新聞」の最新号を少し読みました。この新聞全体を読めるのにはもうちょっと時間が必要です。荒木さんのお話では、ナディアさんはすごいですね。私はもっと頑張らなければなりません。わたしも日本に留学したいです。荒木さんと民子さんの好意が分かって大変うれしいです。

テトでは私の家のタンスの上にお供えを飾りました。

チャン・ラン・アンさんと私

中埜久仁子



昨年、会員になりました。私の知人に素敵なベトナム人のご家族がいらっしゃるの、Iメイトはベトナムの学生さんにしようと決めていました。

昨年秋、アンさんとメールでの交流が始まり、今まで月に一度ほどのペースでやり取りしています。最初は、日本語の勉強や学生生活のことがメインの話題でしたが、近頃では恋人とのお惚気も文中に入るようになり、ほほえましくやり取りをしています。私が恋話を返信できないのがつらいところ…。

最近私たちに事件が起きましたので、ご紹介します。朝、ベッドでスマホのメールを確認すると、「明日日本語のスピーチなので、添削をお願いします」と、アンさんからメールが届いていました。「えっ明日？」驚いて飛び起きました。平日なので家族の朝食を準備し、会社にも行かねばなりません。考えた結果、早めに家を出発し、駅前のファストフード店で、メールの文面を修正しアンさんに返信しました。短文でわりあい簡単な日本語だったのが救いでした。次回から早めに依頼をお願いしますとメールしました。スピーチは上手くいったようで、アンさんに喜んでもらったことが励みになりました。

中埜さんのいる神戸へ行ってみたいです

チャン・ラン・アン

中埜さんとの交流は、非常に意味のあることだと感じています。交流を始めて、まだ短い期間ですが、いろいろな話ができました。毎日の生活や仕事、勉強のことなど、自由に話すことができました。

中埜さんは仕事が忙しくても、いつも熱心に返事してくれます。とても感謝しています。中埜さんのおかげで、私は日本語がペラペラに話せるようになりました。今はN3なので、一所懸命に勉強しています。大学生のうちに、一度日本へ行きたいと思っています。そのときは中埜さんに会えます。神戸のいろいろなところを観光したい～。その時は案内してくださいね(笑)。中埜さんもいつかベトナムへ来ることがあれば、連絡してくださいね。



今週の日曜日はIメイトの学生が参加する交流会がありますので、参加する予定です。

アンさん → 中埜さん

2019 年 2 月 15 日

お久しぶりですね。返事が遅れて、すみませんでした。

最近、お元気ですか。私達はまだ元気です。楽しいテトを過ごしました。今年のテトに私の家族は みんな一緒にバイン チュンをたくさん作りました。バイン チュンを食べたことがありますか。写真は下につけます。今は春でも、まるで夏のように暑いです。テトの休みは 3 週間休まれました。長いですね。神社もお寺もよく行きました。今年はお年玉をたくさんもらえました。笑笑。今年は特別な年です、恋人と花火を見に行った、素晴らしいです。私の恋人は日本語が上手ですよ。笑



バイン チュン



犬もバイン チュン仮装

楽しい情報を知らせたい。N3 合格しました。びっくりしました。点はあまり高くなくても (99/180)、次レベル頑張ります。

今度から、私は 早く 返事します。すみませんね。

中埜さん → アンさん

3 月 15 日

こんにちは。

お元気ですか？

ご無沙汰しています。

もしかして、メールを送ってもらっていますか？

一時、AOL のメール受信が悪い時があったので、確認しました。

もし、送付いただいたら、再送ください。

念のため cc にも、入れてください。

まだ送付していらっしゃらなければ、よいですが。

また、近況を教えてください。

こちらは寒く、雪がちらついています。

それでは、また。

自分のたな卸しと再学習の好機

伊藤 春雄

マルティンさんとのメール交流は、私がIメイト交流に参加して以来、10人目となります。新しい学生と出会う度、初めて恋人に会う心境で「どんな学生だろうか。メールを返してくれるだろうか。老人を相手にしてくれるだろうか」と気持ちが落ち着きません。名前、年齢、生まれ故郷、卒業した学校、家族構成、勤務先など自己紹介文に写真添え簡単なメールを送りました。はやっ！2日後の16日に返事が来ました。自己紹介に加えて「敬語の使い方は難しいと思っています。日本人はどうして敬語を使うのですか」と質問されました。さて、知識が無いからと言って、Iメイト会員の面子にかけ、答えないわけにはいきません。「行く」という動詞を丁寧語で言うと「行きます」。尊敬語で言うと「いらっしゃる」「おいでになる」「行かれる」。謙譲語で言うと「伺います」「参ります」などと使います。自戒を込めて「こんな教え方でいいのかなあ？」



マルティンさんは太宰治の人間失格を読んで、死生観を問われました。50年前に読んだ内容は記憶の彼方。再度読み直しました。Iメイト交流は自分のたな卸しと再学習に好機を与えてくれます。本当に、感謝に耐えません。

おじさんとメール交換することの嬉しいこと

ムハマド アディティア マルティン



その日、斎藤先生の会話授業のとき、Iメイト交流のことを紹介して頂きました。「これ面白いじゃん」と思いました。私は日本の文化や特に日本文学に興味がありました。アジ風のIメイトメール交換に参加し、伊藤春雄さんと交換相手になりました。私は大人の日本人のおじさんとメール交換行うのは初めてなので緊張しましたが、いい経験になると思っていました。

最初は、話の話題は全然わかりませんでした。何がいいかなと頭で考えて、色々な話題が集まって全く書き出せなかったのです。でも、伊藤さんのおかげで話題が決まり、メール交換が始まりました。今までメール交換を行い、私の日本語はあまり上手くないですが、伊藤さんがいつも親切に添削してくれました。伊藤さんに感謝します。メール交換したため私の日本語能力は、特に書くことがだんだん上達しています。色々日本の文や日本人の考え方も教えて頂きました。伊藤さんは優しく、こんな私のバラバラな日本語に我慢して添削して頂いたことに感謝します。メール交換に参加してよかったです。私は伊藤さんに送る返事が遅くなり、迷惑をかけましたが、メール交換することは嬉しく思います。伊藤さんには「いつも心から本当にありがとう」と思っています。

伊藤さん → マルティンさん

2018 年 8 月 4 日

マルティンさんがメールを送って来なくなった理由を聞いて納得しました。パジャジャラン大学に留学した日本人学生が先生の話の聞かず騒々しかったそうで、本当に礼儀知らずで、常識に欠けた行為だったと思います。日本人として恥ずかしい思いです。心からお詫びします。どの国にも善人もいれば悪人もいます。当然、日本にも善人も悪人もいます。でも一部の悪人を見て、その国の国民全体を判断することは避けなければなりませんね。

マルティンさんは日本語に自信がないと言いますが、ほとんど意味はわかりますよ。私も中国語を勉強していますので、お互い頑張りましょう。

マルティンさん → 伊藤さん

8 月 8 日

私は今インターンシップをやっています。4人の友達と一緒にサウンドとノヴェルを作りました。このインターンシップは初めてです。これが会社人の生活かなと思いました。朝、会社に行って、夜遅くまで働いて家に帰る毎日は退屈になると感じました。でも自分は気付きました。仕事を達成するにはインスタントの道はない。仕事のプロセスがもっと重要なことです。前を向いて歩き続けたら目的が見つかります。頑張らなければならないんです。相談に答えて頂いて、ありがとうございます。

伊藤さん → マルティンさん

2019 年 1 月 1 日

貼付したハガキは日本の年賀状です。若い人はメールやSNSを使うようになりましたが、我々高齢者は昔からハガキの年賀状を出す習慣があります。1年間お世話になったお礼や新しい年の抱負（ほうふ）などを書きます。また年賀ハガキには“お年玉”（賞品が当たる抽選番号）が記載されており、当選すると賞品と取り替えることができます。年賀状は1月1日（元旦）に相手へ着くように出すのが慣例です。新年を迎え、健康に気をつけ頑張ってください。

マルティンさん → 伊藤さん

1 月 1 日

明けましておめでとうございます。年賀状ありがとうございます。返事が遅れてすみませんでした。日本人の高齢者は、また年賀状を手書きで書いて、郵便局から送りましたね。しかし、インドネシアには年賀状を出す習慣がありません。なぜないか分かりません。郵便局をあまり使う習慣がないのです。先週私は、日本の年賀状を見て先生に年賀状を書いてもらうよう頼みました。失礼でしょうか。伊藤さんはどう思いますか？今年もよろしく願いいたします。

日本語の上達に驚いたひととき

大橋 典子

フェミさんとは2017年10月からメール交流が始まりました。彼女は日本への留学を希望しているけれどなかなか奨学生枠に入れないと悩んでいました。昨年10月、藤沢市の篤志家による研修プログラムに入ることができ、約1ヶ月、日本でホームステイを経験しました。演劇をやっているフェミさんに歌舞伎を紹介したいと思っていましたが、ホームステイ先のご家族が毎日予定を組んでくれたので残念！無理を言って藤沢駅で一度お会いすることができました。束の間のおしゃべりで、彼女の日本語が日本に来て格段に上達していたのには、とても驚き、嬉しく思いました。



何が流行っているかを知った交流

フェミ ファディラー

こんにちは！初めまして、22歳のフェミファディラーです、フェミと呼ばれています。Iメイトは大橋典子さんです。今年は大橋さんともう2年間メールをしています。二人で色々なことを交換しています。私は2018年10月～11月まで藤沢市に行きました。帰国する前に大橋さんとやっと会えました。大橋さんはとても優しくかったので、本当に嬉しかったです。大橋さんは私にたくさんお土産をくれました、今までそのお土産は私にとって大事にします。その時も大橋さんは私に歌舞伎を見に誘われましたが、私は用事があるので、見に行けませんでした。悲しかったです。

アジアの新しい風のメンバーになったおかげで、私の日本語能力は向上しました。大橋さんにメールを送った時、何か間違った言葉があったら、大橋さんは添削してくれました。私は大橋さんにとっても感謝しています。

日本語学科の学生の私にとって、一番大事なことは会話ですから、このアジアの新しい風のプログラムに参加して日本語能力を高めたいと思いました。大橋さんとの交流メールのおかげで、私も日本で何が流行っているかを知る交流ができました。

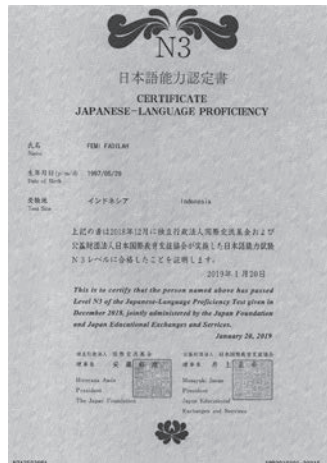
実は、この原稿は早めに送りたいかったのですが、卒論発表やインターンシップ面接や就職活動があるので原稿の送るは遅くなってすみません。良かったことは、私はパジャジャラン大学からもう卒業しました。

これから早めにメールを返します。ありがとうございます。

フェミさん → 大橋さん

2019年2月4日

最近気温はどうですか。インドネシアでお正月の食べ物がありません。でも、大体パーベキューをやります。そして3級の日本語能力試験がやっと合格しました。今、学期休みを楽しんでいます。



大橋さん → フェミさん

2月10日

日本語能力試験3級合格おめでとうございます！！
昨日はアジ風交流会がありました。留学生の日本語スピーチコンテストがおこなわれ、パジャジャラン大学のレイニさんが第2位に入賞しました。
写真を送りますね。



「10年後の夢」というテーマで
スピーチするレイニさん

フェミさん → 大橋さん

2月15日

すごかったレイニさん、彼女は私の先輩です。学期休みに旅行したいのですが実はゴロゴロと友達とたくさんおしゃべりだけです。

大橋さん → フェミさん

2月28日

お休みを楽しく過ごしてくださいね！東京は少しずつ気温が上がってきて、春に近いことを感じています。

東工大での素晴らしい経験をステップに！

小林 玲子

架け橋留学生とのIメイト交流を始めて2年目になります。1年間の来日留学生がIメイトになるため、より身近に感じながら交流できる楽しさがあります。

去年10月、来日したばかりの王亜子さんと初めて会える嬉しさは家族も同じでした。初めは緊張気味でしたが、亜子さんの明るく積極的な性格のお陰で、次第に来日後の生活、将来の夢、東工大研究室での出来事など会話が弾み、とても楽しい時間を過ごせたのを覚えています。



その後亜子さんとのメール交流を続ける中で知ったのは、彼女は向上心のある真の努力家であるということでした。大学院での会話は殆どが英語にも拘わらず、日本語文法の勉強、ドラマ視聴などを通して、5月の食事会では日本語だけの交流が可能になっていました。1年前のメールを読み返しても、格段の上達に感心させられています。

大学院での研究も計画的に準備し成果を上げている亜子さん。常に自分の目標に向かって余念がない姿は、将来の夢の実現に繋がっていくことでしょう。中国帰国の日も近いですが、これからもメール交流で仲良くしていきましょうね。

アジ風一心の港

王亜子（ワン ヤズ）

中国から清華大学と東京工業大学の合同大学院プログラムの方王亜子です。英語向けのプログラムなので、最初はほとんど日本語ができなくて、簡単に挨拶することしかできませんでした。2018年9月から小林さんとIメイトになりました。小林さんから初めてメールをもらったときには、とても暖かく感じました。親切な小林さんが日本語と中国語を同時に使って自己紹介してくれたので、日本に来たばかりの私は感動しました。しかし、最初はどのように返事をしているのか分からなかったし、表現がまずいことを恐れました。



去年の10月、初めて小林さんの家族と渋谷で食事をした時、私は日本語がほとんど話せなくて、簡単な日本語でもよく聞き取れなかったことを覚えています。それでも小林さんの家族は気にせず、私を励ましてくれました。その時から、日本語を一生懸命勉強しなければならないと思っていました。小林さんとメールのやり取りをしているうちに、私の日本語も知らないうちに上達しました。

Iメイトを参加したことをきっかけに、とても親切な小林さんの家族に出会ったことが幸いと思っています。小林さんはいつでもうちの家族が亜子ちゃんを応援してくれると言ってきて、本当に幸せでした。中国に帰っても、日本語の勉強は続けると思っています。

王亜子さん → 小林さん

2019 年 6 月 20 日

こんにちは！先週は雨が頻繁でした。正直、私は小さいころから中国の南方で育ちましたが、雨が嫌いです。

(中略)

先週と今週の集中講義は、清華からの先生が教えてくれました。この講義には、今年の8月に東工大から清華に行く後輩たちも出席しました。私は、先輩だから、声をかけてもらったんです。後輩たちはみんな男の子なので、最初は自分から声をかけるのはちょっと恥ずかしいのですが、やはり勇気が持った方がいいと思いました。後輩の平林君は中国語が一番上手です。彼は北京に7回行ったことがあると言いました。他の後輩たちはすでにか6月中国語を勉強しています。後輩の臼井君が一番明るいと思います。昨夜、8時ごろ授業が終わった後、臼井君と一緒に電車に乗って家に帰りました。私は藤が丘に住んでいて、彼は中央林間に住んでいます。彼は私より少し遠くに住んでいますが、一緒に田園都市線に乗ることができます。初めて日本の同世代と電車に乗っておしゃべりをして、とても楽しかったです。私たちは日本語と中国語と少し英語でおしゃべりしました。確かに、直接会話は言語を向上させるための重要な手段の一つです。小林さんの家族と日本語で話している以外は、日本語で日常会話をする機会は滅多にありません。だから昨日はすごく楽しかったですね。今も日本語を勉強する意欲がいっぱいですから、これからもっと頑張っていきたいと思います。

小林さん → 王亜子さん

6 月 23 日

こんばんは。今年の梅雨は、例年とは様子が違います。例年は静かに「しとしと降る」ことが多いのですが、今年は台風のような大雨が「ざあざあ降る」状況が続いています。いずれにしても、私も雨が嫌いです。気分が滅入りますね。

(中略)

亜子ちゃん、清華大に留学する東工大の学生とも交流が持てて、本当に良かったですね！きっと彼ら自身も、亜子ちゃんと会話が出来て楽しかったに違いありません。中国語を学んでいる日本人も中国語で会話したいと思いつつ、なかなか機会がありませんから。同世代の明るい臼井君、そして他の友達。亜子ちゃんが清華大学に戻ってからも再会して、深い友情を育むことができそうですね。東工大に留学して、とても良かったことの一つではないでしょうか。

緩い I メイト交流もまた楽し

池浦 正子

アジ風に入会してからもう 10 余年が経ちました。初めて参加したのが 2007 年の中国の清華大学訪問。当時の北京は翌年のオリンピック開催を控え煩雑を極めており、それに引き換え清華大学の日本語学科学生達はとても堅実な印象でした。

それから 12 年目の今春、清華大学を訪問し、I メイトの孫如琮さんと 10 か月ぶりの再会を果たしました。初めて会った時は、あまり言葉が通じず心配になっていたこともありましたが、1 年後には完璧に日本語を使いこなした孫さん。一段と美しく大人に成長した彼女は、今夏に日本語検定 N1 受験をし、上海の保険会社で資産管理の仕事に就くそうです。自分の能力を活かして欲しいと願っています。

東工大での留学生活は大変に忙しく、授業、卒業実験に追われていた彼女と、ゆっくり会う機会は限られていましたし、我が家から近い箱根やみかん狩りに誘えなかった事などたくさん悔いは残りますが、彼女が自分の時間を見つけては、旅行に出かけ、大いに日本をエンジョイした様子が、Facebook や Instagram から伝わってきました。日本滞在中に密着したサポートは全くせずの、お手本にならないゆる〜い I メイト交流に終始しましたが、こういう形もありかなと今は思っています。

友好を深く感じた一年

孫如琮

私は東京工業大学を卒業して 1 年間、日本から戻り、清華大学も卒業しました。今、日本での生活について考えることは、私の人生で最も意義があり、最も豊かで、最もやりがいのある年だったということです。ペースの速い学習と挑戦的な生活に加えて、私はまた多く親切な友達と出会いました。アジアの新しい風の経験は、日本人がどれほど友好的かを深く感じさせてくれました。



私が日本を去ろうとしていたとき、池浦正子さんと島村美智さんは私を見送りに来た時に、私のお気に入りの日本の歌劇団、宝塚歌劇団について話しました、すごくうれしかったです。残念ながら、日本には 1 年しかいない、そして本当に池浦さんと会う時間はあまりなかったのですが、私はいつも親切な池浦さんとアジアの新しい風の皆様と出会ったことは一生の懐かしい思い出になると思います。そして、今は皆さんに報いることはできませんが、私は彼らのような良い人にならなければならないとも思います。

今年 5 月に北京で池浦さんとお会いできてとてもうれしく思います。就職活動や卒業論文のように忙しくありませんでしたが、短い時間での出会いもとてもうれしく思いました。これからも、皆さんとまた会うのは楽しみにしています！

孫如琮さん → 池浦さん 2019年3月15日

池浦さん、こんにちは。お久しぶりです！お元気ですか？

メッセージを送ってくれてありがとうございます！

帰国してからいつも卒論と就活のことあるから連絡していない。ごめんなさい。

5月のころ、多分大学にいるから参加できると思います。

もし、池浦さんと会えると嬉しいです。

池浦さん → 孫如琮さん 3月15日

今から申し込むところです。その前に飛行機を調べてからまた連絡しますね。

北京へ行ったら、盧溝橋にある中国人民抗日戦争記念館へ行ってみたいと思っているのですが、電車に乗って遠いので、無理かな？教えて。

池浦さん → 孫如琮さん 5月24日

おはよう。北京へ来ました！清華大学甲所に泊まっています。

昨夜はこの先生と食事をしました。



孫如琮さん → 池浦さん 5月24日

ようこそ！お返事が遅くなってごめんなさい。楽しそうです！

そういえば、この先生とどこかで会ったと思います。日本語先生でしょうか？

明日の夜、楽しみにしています！

池浦さん → 孫如琮さん 5月24日

日本語学科の馮先生。退官された。

孫如琮さん → 池浦さん 5月29日

ありがとうございます。

池浦さん、もう無事に帰りましたか？

池浦さん → 孫如琮さん 8月1日

孫さん、元気に仕事していますか？日本語N1試験、出来ましたか？

学校を出てからはほんの数日なのに、とても長い時間が経ってしまったと感じる貴女。

今は仕事に慣れるのに精一杯な時期ですね。8月1日の真夏の今日、今年の架け橋の留学生達とお別れ交流会がありました。去年は、交流会に参加出来なかった孫さんと神楽坂のガレットの美味しいお店でお別れ会をしたのも懐かしく楽しい思い出です。亜民さんから、あなたの就職先が上海の国華生命保険公司だと聞きました。これからもうやり、交流を続けましょうね。

清華大学＋架け橋グループ

世の流れを肌で感じた自宅での交流会

福山 阿英

Iメイト交流会への参加はかなり久しぶりのことでした。子育てをしながら仕事を続ける



生活は思った以上に忙しく、なかなか交流会に参加できる余裕がないのが現実です。上さんから交流会参加のメンバーが自宅に訪れたいとの打診が来たときは二つ返事で引き受けました。小さい子供を連れて外の会場に行くのは大変ですけど、みなさんが自宅に来てくだされば、子供のことをさほど気にせず交流会に参加できと思ったのです。

そして迎えた当日、来客好きな子供も含めて家族3人でワクワクしながらみなさんの到着を待っていました。やがて三々五々到着したメンバーたち、学生たちの顔を見ると自然と自分の大学時代を思い出しました。まだ自分の将来図がまったく見えず、不安が半分、期待が半分の状態だけど、とにかく限られた世界で9時5時を繰り返すのはいや、もっとワクワクする仕事がしたいと思っていました。それが何なのかははっきり分からないけど、そのためにはしっかり勉強しないといけないと思っていました。(今は目の前のことをこなすのが精いっぱい生活ですが・・・)

どのように交流会を進めたのかについては、アジ風新聞 62 号にご報告がありますので、私からは割愛いたします。いきなりですが、感想になります。

一番印象に残ったことは、中国からの留学生のみなさんの専攻が理系ばかりで、しかも細分化されていたことでした。メカニカルエンジニアからバイオまで、どれも舌を噛みそうな難しい専攻だったのを覚えています。まさに今の中国の発展を表しているかのようでした。私も通訳の仕事でイノベーション関連の企業交流を担当することがありますが、IT においては中国が日本より進んでいることは業界では言うまでもないことです。日本のハイテク企業を訪問しても、かなりの確率で若い中国人技術者が在籍しています。中国の若手技術者が日本でスタートアップ企業を立ち上げることも珍しくありません。世界の特許申請量を見ても、現在中国がアジア1位、世界第2位で、3年以内にアメリカを抜いて世界1位になると予測されています。一方、多くの中国人経営者が今日本から切実に学びたいと思っているのが、企業理念、人材育成、経営管理です。中国と日本の協力関係は宿命のようにも感じます。数年後には、わが家での交流会に参加したみなさんもイノベーション分野で両国を行き来しながら自分の力を発揮しているに違いないと思うと、今から楽しみです。

私たちはこのようにアジ風の活動を通して、世の流れを肌で感じていると思うと感謝の気持ちでいっぱいです。

次も交流会に参加できることを楽しみにしています。

(編集部註：旧姓 朴阿英 日中同時通訳)

日本人の家庭を訪問する

周志方



2018年11月17日は素晴らしい日でした。私たちは、日本人の家庭訪問に行って、日本人の生活をより良く理解するには、それは私たちにとって非常に貴重な機会でした。

まず、上高子さんの家に行きました。上高子さんの家は東急田園都市線の桜新町駅の近くのマンションです。団地の環境は優美で、植生が豊かで、公園のようです。大多数の中国人の家庭と違って、家に入ると小さな階段があります。そこは靴をはき換えるところです。家の面積は大きくないですが、機能が充実しているし、通風と採光がよいし、それに綺麗だと思いました。また、ほとんどの日本人は家にバスタブがあります。これは日本人の温泉文化かもしれません。

その後、福山阿英さんの家を訪問しました。福山阿英さんの家は典型的な日本の一戸建てです。家の入り口に自分の好きな木や花を植えられて、生活をとても楽しまれています。また、日本では地震が多いので、家の構造は非常に軽く、安全です。福山阿英さんは中国人で、多言語に精通しています。ご主人は日本人で、可愛い子供を持っています、とても幸せそうです。

その日の活動はとても有意義で、面白いと思いました。日本に対する理解を深めました。本当にありがとうございました。

国際結婚の楽と苦も聞いた住宅訪問

寶汗青



2018年11月、アジア新しい風のメンバーと交流会に参加した。交流会は大きく分け二つの部分で構成し、午前中のディスカッションと午後の日本人の住宅の訪問がある。私の場合だったら、いつも教科書やテレビドラマでしか見られない日本人の部屋の正体を自ら見ることもっと嬉しいことがない。

上さんの住宅はマンションで、福山さんの住宅は一戸建てである。全く違うデザインで、周りの雰囲気も異なる。日本の高級マンションはセキュリティを重視し、物件は用途によってはっきり分けられている。上さんの家に訪問するのが初めてではない。毎回行って、部屋の清潔と安定感に響く。さらに「スズメは小さくても、五臓六腑はすべてそなわっている。」ということわざの意味を十分に分かった。

土地に関する政策で、中国には福山さんの家のような私人の住宅がない。なので、初めて福山さんの住宅の外見や内部構造がすべて夫婦二人の発想を出発点にして作られることを知ると、ショックは大きい。ガーデン付きのピンクの家を持っているのは私の夢と言っても過言ではない。国際結婚の楽と苦、福山夫婦の日常生活のストーリーを聞いて、言語は二人の縁を結ぶ役割を務めている能力をさらに感じた。

4月のIメイト交流会を思い返して

タサニー・メーターピスィット



春のさわやかな季節4月にアジ風とタマサートとの絆をさらに深めた交流会に参加させていただきました。仕事を忘れ、国際交流の醍醐味を味わうことのできる貴重な時間でした。

Iメイトの学生の姿をみますと、しばしばIメイトプロジェクトを導入した15年前のことを思い出します。未習者の日本語能力のサポートを願い、日本語力の低い学生とのマッチングを奨励しました。ところが、逆に日本語力不足が障壁となってしまったこともあったようです。言葉の壁が心の壁となったような気がしてなりません。それ以来、日本人との交流や日本留学を希望する学生に参加を促すようになりました。

世代ギャップのため、話がかみ合わないという組もあれば、年齢が離れているからこそ、そのギャップを楽しめたという組もあり、人との交流は不思議なものです。様々な要素が絡み合い、解決策は決して一つではないということが分かりました。コミュニケーションの手段が変わろうとも、人とのつながりが何よりも大切であることは間違いないと信じています。

高校1年になる娘にも、人とのつながりの大切さをぜひ知ってもらいたく、アジ風の交流会と一緒に参加させていただきました。おかげさまで、お姉さんたちと一緒に、着物、生け花、カラオケなどの日本文化を体験し、多くを学ぶことができました。

文化体験の舞台となった佐々木邸では、子孫にあたる能登路雅子さんのお話から昭和初期の中産階級の暮らしを垣間見ることができました。古き良き時代の財産を子孫のために残すことも大切だと気づかされました。バンコクは今、電車、高層ビルやマンションなどの建設ラッシュで、古いものを捨ててどんどん新しいものを取り入れています。果たして古き良き時代のバンコクの面影がどのくらい残るのだろうと思いました。

今回の日本滞在中、上高子さんをはじめ、奥山寿子さんご夫婦、五十嵐久仁香さんに大変お世話になりました。アットホームな環境で最高のおもてなしの心に触れられた我が家にとりまして、一生忘れられない旅でした。クラシック演奏会、山梨の神代桜、月島のもんじゃ焼きストリート、築地市場の新鮮な魚介等々、併せまして心から感謝を申し上げます。

今回の交流会に参加して、以下のことをつくづく考えさせられました。インターネットの普及で、地球の反対側の人ともつながることができるようになりましたが、実際に会うことで得られるものには、ネットでのコミュニケーションとは比べ物にならないほど、大きな価値があるように思えるのです。つまり、「現場」に足を運び、場を確認する、「現物」を手に取り、物を確認する、「現実」をこの目で見て、事実を知ることが大切であり、多くの人の話を聞き、コミュニケーションをとることで、自分の成長は計り知れないものになるということを学生達に伝えていきたいと思っています。誠にありがとうございました。

民家でタマサート大学の交流会

マンリカー・ポープウン



こんにちは、皆さん。マンリカー・ポープウンと申します。一年間お茶の水女子大学に留学しています。

4月に日本の民家でタマサート大学の交流会に行きました。その時、私は伝統的なタイ踊りの担当者でした。私は、小学生の頃から、ずっとタイ踊りをやっていましたが、海外でやったことがありません。交流会で、日本人のIメイトの方にタイの文化をやって見せるのは、とても嬉しかったです。また、その日は着物と生け花のような日本文化を学びました。タイでは生け花をしたことがないので、交流会で生け花をした機会があって、とてもいい経験でした。着物も素敵で、皆楽しんでいました。そして、この交流会ではIメイトの方と遠く留学している友達に会って、とても良かったです。Iメイトの方と色々話しながら、お弁当を食べて、とても良かったです。

最後に、一番感動したのは民家です。時代が変わって、住んでいる所も変わりましたね。日本も特に東京、高い建物やたくさんあります。しかし、私のような今の世代の人に日本の伝統的な民家を守って見せるのは感動しました。日本の文化だけではなくて、日本の民家に触れて、とてもいい経験でした。今回このような交流会があれば、また参加したいです。

Iメイトの初対面と日本伝統の家の触れ合い

ジッラダー・ミーセーマー



4月14日、はじめてIメイトパートナーさんの山田稔さんにお会いできました。山田さんは東京に住んでいるため、大阪に留学している私と会う機会がなかなかありませんでした。そのため、今回の交流会を機に会うことを楽しみにしていました。

当日の待ち合わせ場所は住宅の中にある、外見からみて、全然ほかの家と違って昔ながらのほのぼのとした家でした。玄関から笑顔で迎えてくださったIメイトの皆さんと大家さんは今でも記憶に残っています。そこで、佐々木邸の紹介も聞かせていただきました。昔ながらの家を保存するのは非常に困難であることも分かりました。それにもかかわらず、大家さんは一般の人々に伝統的な家に触れる機会を与えたいため、現在簡単には見られない家を保存することにしました。これはとても感動しました。

発展していく街の中に茶色の木から作られて、豊かな緑の日本庭園に囲まれた家があるとはどう考えてもとても珍しいことでした。このような雰囲気の中でIメイトの方々と交流できて非常に胸がいっぱいになりました。

貿易大学

I メイト活動の意味や効果が実感できた交流会

グエン・ティ・タン・アン



「アジアの新しい風」と貿易大学の日本語学部との交流関係が 2008 年から始まりました。ちょうどその年、私が博士課程を修了して帰国しましたので、「アジアの新しい風」に派遣された先生方と長い間一緒に仕事をしておりました。今年、日本語学部長から「アジアの新しい風」との協力関係の窓口に任命され、2019 年の交流会に参加する機会がありました。

4月 26 日に関空に到着した後、武田さんと島村さんがバス停までお迎えに出て下さいました。そして、京都まで案内して下さいました。

翌 27 日には交流会が 9 時から始まりました。交流会で会った教え子の皆さんは元気たっぷり、自信たっぷりの姿を見せて、とても感動しました。交流会の司会者はレー・クイン・アインさんでした。1年留学ただけで日本語能力や司会スキルが立派に上達して、私をびっくりさせました。留学生の感想を聞いて、彼女らの留学日常生活において I メイトの方々の存在が大きいことがわかってきました。

グループ活動の時、I メイトの方々から興味深い知識を伺いまして、いい勉強になりました。交流会では、留学生と I メイトはそれぞれ感想や感謝を述べました。皆さんの心からの話を聞いて、I メイトの活動の意味や効果が実感できました。

交流会はただ互いに話し合うだけでなく、楽しいゲームもあります。老若男女一緒に楽しくゲームに参加する光景を見て、安心感も感じました。貴重な教え子たちが留学して、がっかりしたり、寂しくなったりしたことがあるはずです。特に、ド・アイン・トウさんのような日本の大学進学する学生は学費などの負担も考えなければなりませんので、いろいろな困難を感じるはずです。それをどうやって乗り越えられるか、心配しました。しかし、I メイトの方々の留学生に寄せる関心や愛情を自分の目で見た後、安心しました。そして、「アジアの新しい風」は進学する学生に対する奨学金の制度があります。これは非常に有意義な制度だと思います。

交流会が終わった後、日本人とベトナム留学生が揃って北野を散歩しました。その日は光がキラキラ照らしてきました。笑っている学生の顔を見て、私の心も踊りました。

貿易大学と「アジアの新しい風」との交流関係がますます発展していくことを確信しました。

楽しく遊びながらたくさんの学び

ライ・ティ・ジュエン

半年ぶりにアン先生と再会でき、貿易大学のことや後輩のことで話が弾んでとても楽しかったです。先生がもともと理系学生だったのに、日本語を選んで、そして日本語の先生になった話を聞かせて下さって、本当に感動しました。特に、「皆さんはまだ若いから失敗を恐れなくて！失敗してもいいですよ。必ず何か意味があるから」という先生のその言葉から、元気とモチベーションをたくさんもらいました。これから胸を張って、自分らしく自分の道を進んでいきたいと思いました。

また、ディスカッションで、日本のバス運転手のマナーや機能がたくさん付いているトイレなど、様々な面白い話をして、日本人のおもてなしの素晴らしさを改めて深く感じました。それから、日本に来て感じたカルチャーショックや気になっていたことについても親切に説明して下さったおかげで、すっきりしました。

最後に、ビンゴゲームをした時、少し残念な気持ちでした。一番早くリーチした人だったのに、なかなか最後の問を答えられなくて結局勝てなかったのです。しかし、勝ったIメイトの中村一郎さんがハンカチやら、かんざしやら、たくさんの可愛いプレゼントを取って下さって、とても嬉しかったです。日本語の表現や都道府県に関する知識もたくさん得られて、非常に良い勉強になりました。

楽しく遊びながらたくさんの学ぶことが出来た有意義な一日でした。



右端がジュエンさん

なつかしい母国の先生と友人たちとあって

グエン・ティ・キム・リン

一年近く日本に住んでいて、周りの人は外国人ばかりなので、母国の友達と先生にずっと会いたいです。アン先生に会ったとき、すごくうれしかったです。ひさしぶりなので先生の姿を見ると懐かしく感じました。アン先生はいつも明るくて、積極的なエネルギーを周りの人に広めました。貿易大学の友達と集まって話して、家族の感じが心の中に溢れました。交流会でほかの先輩に会えて良かったです。先輩たちは誰でも優秀な人で、日本で一生懸命がんばって活躍しています。みんなの話を聞いて、自分の視野も広がられると思いました。皆のようになりたく、努力をしようというモチベーションが上がりました。

交流会が終わったら、神戸の町を観光して、Iメイトさんから話を聞いて、日本の歴史と文化の知識も得られました。今回の交流会の後、神戸は私が一番好きな都市になりました。



「最高の人生」を目指す鈴木さん曰く、「得難い体験でした」

インタビュアー 理事 上 高子

正会員 鈴木一美さん プロフィール

2014 年入会。2016 年度 I メイト・オブ・ザ・イヤー

2016 年9月より、第二号奨学生・清華大学卒の王鶴さんがホームステイ

- ー 王鶴さんを2年半の間お宅に預かっていただきました。そのご体験を会員の皆さんにお話しただけるとうれしいのですが。

鈴木 二階建ての完全分離型二世帯住宅ですから、同じ屋根の下とはいえ、顔を合わせるのは月に1〜2回ぐらいであまり頻繁な接触はありませんでした。事前にメールやインターフォンでアポをとって。だからホストファーザーと言っていいかどうか。

- ー でも、外のカラオケには、王さんも誘ってアジ風のメンバーと一緒に何度も行きましたよね。鈴木さんのカラオケ好きは有名ですから。

鈴木 ええ、平均週に三回はカラオケを楽しみますよ。マイク型簡易カラオケを持ち歩いています。歌うと気持ちよく飲めるとストレスが解消され、健康にもよいのです。アジ風のカラオケ同好会世話役みたいな感じですね。

- ー 王さんを預かるようになった経緯をみなさんへお知らせください。

鈴木 2015 年の9月に母が92 歳で亡くなりました。一人になったので空き部屋を誰かに貸そうか、と思っていたとき、アジ風から「奨学生を預かってもらえないか」という話がありました。不動産屋を通して見ず知らずの人に貸すより、家賃収入は安くてもそのままで貸せるのでその方がいいと思って引き受け、母が亡くなって一年後から王さんともう一人友人が住むことになりました。



- ー 外国人ということで、ご親族やご近所に気づかいはありませんでしたか？

鈴木 正直に打ち明けると、ちょっと懸念はあったのですが、二人とも中国では有名な大学の卒業生ですし、王さんの日本の大学院も有名校（一橋大院）でしたから、すんなり受け入れてもらえましたね。それにアジ風が仲介ですから安心でした。向こう三軒両隣には挨拶に同行してもらい、またシンガポール在住の娘家族も、一時帰国の際に二人に会って食事をしながら話し合い、安心してくれました。

- ー 2年半の間にはトラブルもあったのではないですか？

鈴木 私の住む二階から一階へ2度の水漏れで、修理をしたということ以外は、何もありませんでしたよ。お互いあまり干渉せず、私はおせっかいをせず、ときどき旅行のお土産を渡し合ったり、友人を含め食事したり、お互い面白いよい体験ができたと思います。まあ、もう少し部屋の整理整頓をしたらいいのに、と思わな

いでもなかったのですが、同じ部屋にいるわけではないし、自分も似たような感じでしたので目をつぶりました。何か壊したり失くしたりということもありませんでした。今年3月に三井住友海上火災へ就職が決まり、5月に退居の時はきれいに掃除して「立つ鳥跡を濁さず」で引っ越していきましたよ。異文化ギャップを感じたことはありませんでしたね。

- また一人に戻られて、寂しくなりましたね。もう一度ホストファーザーをなさるつもりはありませんか。

鈴木 実はこの家（在世田谷区世田谷）を売却してマンションタイプの元気な高齢者対象の施設に入ることを考えています。年齢的にひとりでいつまでも古い二世帯住宅を維持していくのは大変なので、郊外に適当な施設を見つけました。この家が売れ次第、引っ越す予定です。

- お住まいはアジ風本部事務所（編集部注：上さんの自宅）の近くでしたから、鈴木さんを何かと頼りにして、お手伝いしていただきましたが、引っ越されると足が遠のきそうで心配です。

鈴木 それは大丈夫ですからご安心ください。アジ風のイベントには都合がつく限り参加しますし、Iメイト交流を通して学生のサポートは続けます。自分自身の勉強にもなりますし。

- ところでアメリカの映画「最高の人生の見つけ方（ジャックニコルソン・モーガンフリーマン共演）」に触発されたとか。これまでやり残したことや行きたいところをリストにしておられるのですね。

鈴木 癌で闘病中の家内の看護を10年余り続けた末、62歳で男やもめ（笑）になりました。没後5年間は妻の影ばかり追いかけていたのですが、自分の人生を前向きに考えようと、以前から興味があった国際交流の一環で日本語ボランティアを始めたころ、アジ風にも出会ったわけです。

- リストにはどんな項目が上がっていますか？

鈴木 映画のように、「泣くほど笑う、見ず知らずの人に親切にする、荘厳な景色を見る」などは、まだできていませんが、行きたい所や、やりたいことはかなり消し込み済みです。クルーズでの海外旅行は2度経験済みですが、まだまだ意欲的ですよ。アジ風のみなさんとのカラオケのお楽しみも。

- アジ風熟年メンバーのモデルになるような、「最高の人生の終わり方」を示してくださいね。



インタビュー後もカラオケ
何を唄っているのかなあ??



【元奨学生の王鶴さんから】

そうですね。私ももう少し整理整頓に気を遣うべきでした。

「ご親族やご近所に気づかい」のところで思い出したのですが、向こう三軒両隣に挨拶した日に不在だったおばさんに後日出会って、自ら自己紹介と挨拶をしました。そのおばさんがうれしそうに親切に就活や生活のアドバイスをしてくれました。

5年前、鈴木さんから入会希望の電話があり、近所の喫茶店で面談した時のことをよく覚えています。初対面にも拘わらず、数年前に奥様を亡くしたこと、クルーズなど海外旅行に出かけ気持ちを切り替え、国際交流に貢献したいことなど、率直に話してくださいました。その後インドネシアと交流をしたくて人脈を探っていた私に、インドネシアの研究者であるご友人を紹介してくださいました。それが今の理事長・加納啓良さんです。人と人のつながりで人生は紡がれますね。

王鶴さんを預かってくださってからは、よく一緒に食事をしたりカラオケに行ったりして楽しみました。やもめ暮らしを結構楽しんでおられたように思います。鈴木さんのように、留学生のホストファミリーをしてみたい、という方がありましたら、ぜひ事務局へお申し越してください。

「最高の人生」の話を聞いて触発されたので、私も終活のためのリスト作りに着手しようと思っていますところですよ。

(上 高子 Iメイト交流担当理事)

日本は外国人に選ばれる国か

日本にはすでに多くの外国人が社会に溶け込んでおり、多くの日本人は、近所に外国人が住み、普通に日本語でコミュニケーションし、一緒に仕事をしている、という状況に慣れてきた。

外国人の中には、大学在学中の留学生やアジ風が支援している元 I メイト OBOG たちのように、高度専門職のビザを有して、日本社会で活躍している人も多い。

彼等がなぜ日本語を学んだか、なぜ日本を選んだかを、アジ風では折に触れて交流会などで話を聞いてきた。先進国だから、歴史的地理的に近い国で共通点も多いから、日本のアニメに代表されるサブカルチャーに惹かれたから、日本語が好きだからなどなど、その理由はある程度予測できるものであった。

技能実習生のように、日本で研修を受けながら働く人もいる。若い実習生たちが、技能を習得して自国に持ち帰り、自分たちのキャリアとして生かそうとしている一方で、労働力不足を補うために、劣悪な環境と待遇で実習生を受け入れている企業があり、社会問題となっている一面もある。先進国日本で自分の夢をかなえたいと来日したこのような技能実習生は日本をどのような国だと評価しているのだろうか。

さらに観光客として日本を訪れる外国人は増加の一途をたどっている。日本の地方都市にも、インターネットの情報で多くの外国人が訪れている。近年の傾向として、日本の生活文化を体験するのが人気だそうだ。「インバウンド」という言葉が定着したように、観光客の増加は日本の経済活動にも大きな影響を与えている。これが日本理解のきっかけになれば喜ばしいことであるが、表向きの日本、観光資源国としての日本だけがもてはやされているのではないかという疑念も残る。

アジアの新しい風が発足して 16 年が過ぎた。その間に I メイト交流に参加した学生は、約 800 名。最初の学生たちはすでに 30 代半ばの働き盛りの年齢になっている。I メイトとの交流経験は彼等のキャリアにどのように生かされているのだろうかという思いから、事務局では卒業後も I メイトと継続して交流している学生のリスト作りを開始した。卒業生たちのその後の進路を確かめ、彼等の声を聞くことはアジ風の活動の確認でもあり、これからの活動の指針にもなるはずである。

今年の正月に、連絡が取れる OBOG たちに、新年の挨拶と共に次のような質問を試みた。

- ① 政府は「外国人に選ばれる国、日本」になるよう願っていますが、
日本は安心・安全の国だと思いますか？
- ② 日本に住むのは自然災害が多く危険、という意識はありますか？
- ③ (自分はそれほどでもないが)、家族や周りの人はそう思っていますか？

回答を送ってくれたのは 12 名。内訳は中国 2 名、ベトナム 6 名、タイ 3 名、インドネシア 1 名である。回答は添付資料を参照いただきたい。

現実には日本は自然災害が多く、その意味では危険だと認識しているが、留学を決めるときに、留学を思いとどまる理由にはなっていないことがわかる。

ある学生の回答。「個人的な意見ですが、全体的に日本は安心・安全な国だと思いますが、最近のベトナム人労働者の受け入れで、暴力事件など耳にしますとやはり怖く感じます」。これは外国人の本音であろう。

アジアの国々の経済力が高まり、経済的側面での求心力が落ちた現在の日本が外国人に選ばれるには、何が必要なのだろうか。政府の外国人受け入れ政策の改善はもちろんであるが、重要なのは日本人の意識改革だと考える。アジ風事務局では、次回はOBOGや留学生から日本での差別や偏見についてのアンケートを予定している。このアンケート回答をもとに、交流会で留学生や会員との話し合いを行い、今後の草の根交流の在り方を探っていきたいと考えている。

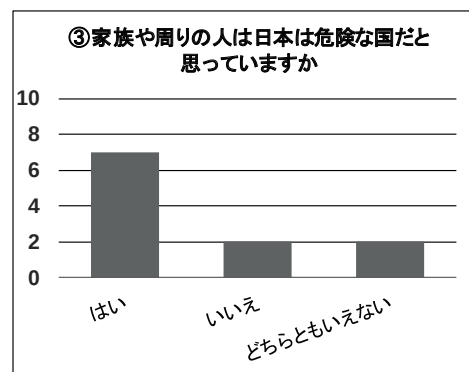
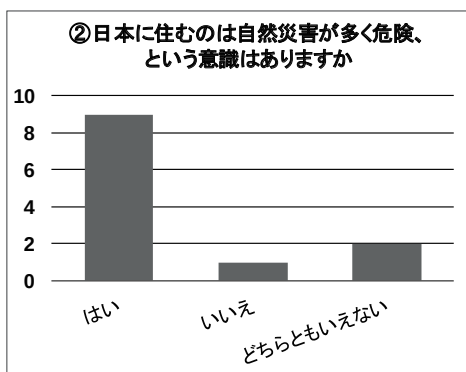
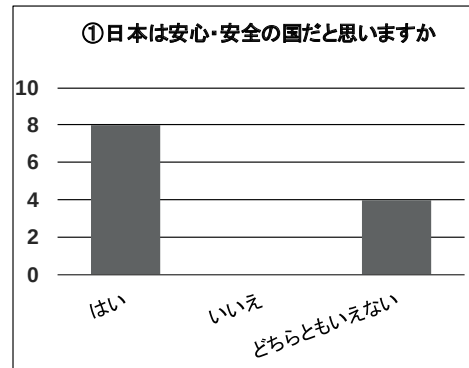
アジ風のIメイト学生たちには、両国の架け橋になってもらいたい。彼らは日本や日本人を客観的に観察する冷静な目を持ち、日本に多くの友人を作り、国際結婚もすでに数組を数える。クロスカルチャーの中で生活する彼らは、日本文化の理解者であり、母国の文化の発信者でもある。日本人も外国人も共に違和感なく生活をしていける国であること。それはアジ風が目指す多文化共生でもある。

理事 奥山寿子

<資料>

元Iメイトからのアンケート回答

中国	2
ベトナム	6
タイ	3
インドネシア	1
	12名



アジ風のおかげで寂しくない留学生活

王雋淇

アジ風学生会員、奨学生の王シュンキです。今は一橋大学経営管理研究科マーケティング講座の修士1年で、「準拠集団がソーシャルゲームにおける課金意欲に与える影響」というテーマについて研究をしています。大学院の授業は思ったよりも忙しいですが、アジ風から奨学金を頂くおかげで勉強に専念できます。



研究生の時とは違って、正式な院生になってから、授業で日本人の学生や他の国籍の学生と一緒にディスカッションして交流することは多くなりました。この過程の中で何となく付いていけるのはアジ風のおかげだと思います。大学2年生の時から、奥山正昭さんと交流してきました。その中で、お互いに理解し合い、交流することで積んできたコミュニケーション能力の向上や日本の文化に対する理解も深められたと思います。

勉強以外に、たまにアジ風の方と一緒にカラオケに行ったり、食事をしたりもします。正直に言って、一人で日本で留学することは少し寂しく感じますが、自分は日本においても友達や家族がいると実感して、幸せを覚えます。さらに、アジ風の新聞を見たり、会員の方に会うたびに皆さんの積極的で楽観的なライフスタイルに感動し、力を頂いています。

アジ風に出会って、本当によかったといつも思っております。これからもアジ風の一人として頑張っていきます。

留学が自分をもっと成長させている

ド・アイン・トゥー

神戸大学の経済学研究科に在学しています。去年の10月大学院に入学しに来日しました。幼い頃の留学夢を実現にすることができました。



実は出身地がベトナムの首都のハノイ市内だから家族離れの大学生活を過ごしたことはまったくありません。借家で一人暮らしの体験はもちろんゼロでした。大学を卒業した後でも自分の知識はまだ足りないし、成人としての生活体験はとても貧乏と感じていました。外国の留学で温かい両親の手を離れて不安感より楽しみや希望を多く日本に持ってきました。留学が自分をもっと成長させているということにはっきり気づいています。自己の世界はだんだん広がっていて日本人の親切さや思いやりでお世話になっています。「郷に入れば郷に従え」、日本のことがたくさん分からない私は周りの日本人、例えば大家さん、バイト先のおばちゃんたち、先生、友達、特にIメイトの曾我部健さんに教えてもらっています。いい思い出も作れました。Iメイトさんの自宅訪問、誘ってくれたミュージカルコンサート、ごちそうになったおいしいトロサーモンやマグロ、花見など本当にありがたくて楽しい記念でした。

もうすぐ修士課程の1年目が終了します。研究テーマや内容はまだ正式に発表していませんがアジア地域内のマネーフローについて研究したいと思っています。ベトナムは東南アジアの発展途上国で経済の健康のために国内の資本や外国から資本移動の状況を重視し適切に対応しなければなりません。今後先生の指導の下で研究を展開していきたいと思っています。難しく大変ですが全力で頑張ります。

2018年度のアジ風奨学生は応募がありませんでした。今年度はぜひ相応しいIメイト学生の応募があるよう願っています。Iメイト会員の皆さんもPRにご協力ください。ホームページ「留学支援」に記載されています。

6. 元イメイトは今！

言葉、年齢、国境を超える暖かい思いは消えない

劉詩璇



田代さんの麦わら帽子を拝借して草取り

初めて田代さんに会ったのは、2016年11月のことだった。その時、大阪に交換留学中の私は、アジ風の料理活動に参加するために東京に行った。東京に行く前に、田代さんが非常に丁寧に道を案内する手紙を書いてくれた。「660円のチケットを買い、9時13分発の電車を乗って」まで書いてくれ、その時の感動は今でも忘れられない。異国なのに、私のことを誰よりも心配し、誰よりも細かく考えてくれ、親のように面倒を見てくれた（私は、確かに面倒な人だ）。

別れるとき、田代さんの奥さんから手作りの袋をいただいた。その袋の中には、おやついっぱいだった。奥さんから「疲れる時にこれを食べるとすぐ元気になるよ」と言ってくれたが、元気を与えるのはおやつではなく、思い出であり、心遣いであり、愛である。

再会した際は、新年のスピーチコンテスト。田代さんが直してくれたおかげで、いい成績を取れた。（編集部註：1位でした）その後、一緒に東京タワーなどの名所を観光し、田代さんの家族とともにお酒を飲み（その時私もう二十歳で合法）、みんな優しい人で楽しくてふにやふにやまで飲んだ。次の日、田代さんと奥さんと一緒に、日比谷公園の中に食事をし、そのちょっといいレストラン（〇〇楼）で、私はココアのドリンクを溢れちゃい、大騒ぎしてしまった。田代さんは「いい思い出ですよ」とおっしゃってくれたが、彼も私と同じように恥ずかくなってしまう、どこかに隠そうしたがっているだろう。私も「知り合いいないから大丈夫」と言ったが、田代さんと同じようにさっさと食事を済ませてそのレストランから逃げた。今から思い返すと、やはりいい思い出だった。

その後、半年間東京でインターンシップをしていた。田代さんのご懇篤なお招きにより、彼の実家である栃木県に2回も参りました。たんぼも、野良猫も、桜も、蛍も、たけのこも、アスパラも、ふどんも、ほろよいも、最高だった。まるで、中国の神話や武道小説の中に、力がつよい神様やレベルの高い世捨て人が住んでいるところだ。それは、日本にいる時一番楽しかった思い出だった。

9月から清華大学の大学院に入学し、中国文学を専攻する。一部の私は理想主義者であり、好きなことしかやりたくない。将来の進路を決めるとき、田代さんにも色々相談し、それを通じ、自分の考えを整え、やはり人は夢と理想が一番大事だということを知った。田代さんの支えや励ましの言葉は、私に自信を与え、前に進む原動力ともなった。もっと優秀で素敵な人間になりたい原因は、好きな人たちに誇りをもたらしたいからである。

魯迅の文章「藤野先生」にこのように述べた「彼の私にかけた熱意に満ちた期待、倦まざる教えは、小にしては、中国のためであり、つまり中国の新しい医学の出現す

るのを望むことだった。大にしては学術のためであり、つまり新しい医学が中国に傳わることを望むことだ」という。田代さんは医学を教えるのでもなく、私は魯迅でもないが、田代さんを思うとき、思わずこの藤野先生という人物が出てきた。言葉、年齢、国境を超える暖かい思いは、いつまでもいつまでも消えないだろう。田代さん、ありがとう。それに、またよろしく。

【元 I メイトの田代 學さんから】

日常に大きな潤いと活力を

詩璇さんとの交流は楽しかったなあ。僕は詩璇さんからのメールをいつも心待ちにしていました。

交流を内容のあるものにするためには、通り一遍のことだけではだめだと思い、自然や社会・文化・歴史のことなど、一生懸命に考えたり調べたりしながらメールを書きました。おかげで、僕のほうこそたくさん勉強することができたのではないかと思います。老人の平凡な日常に大きな潤いと活力を与えてくれたことに間違いありません（笑）



左端が詩璇さん、田代さん夫妻

詩璇さんは頭脳明晰。質問に対してはいつもの確にわかり易く、論理的に答えてくれました。この人は研究者や教職に向いていると思ったものです。また勉強ぶりと記憶力がすごい。日本の古典文学の一節なども、会話の中でスラスラと出てくるし、語彙力も豊かで、とにかく何でもよく知っていて驚かされました。某俳優の熱烈なファンで、彼が出演するドラマなどをネットで見ているらしく、日本語の習得にかなり役立ったに違いないと思っています。物怖じせずに誰とでもすぐに仲良くなってしまうところもなんともいえない人間的な魅力です。

僕は自然な日本語らしい表現にこだわって厳しい添削をしました。意味が通じていれば良いではないかと思われるかもしれませんが、日本語の美しさを少しでも体得してほしいと思ったからです。

数ある言語の中から日本語を選んで学んでくれたことに深く敬意を表します。大学院で学ぶことで一層魅力を増されんことをお祈りします。そして、今後もアジ風を応援してくださいね！

アジ風の I メイト交流と今の私

佐山 奈々



右から4人目が奈々さん、右端が坂巻さん

気づけば私がアジ風に参加してから5年が経ちました。最初、私は友達に誘われて参加したため、この活動については何も知りませんでした。まさか、その日に私の人生を大きく変える出来事があるとは思ってもみませんでした。それはもう一人家族が増えたということです。

私の I メイトは坂巻延子さんです。初めてメールが来た日から今日まで連絡を取り続けています。親の

ような存在で、とても尊敬しています。私の人生の中で大きな出来事があるたびに必ず坂巻さんのことを思い出し、報告したくなります。アジ風の交流会がタイのタマサート大学で行われたときに、私は家族に坂巻さんのことを知ってもらいいい機会だと思い、私の家に坂巻さんを招待しました。その前から家族には坂巻さんの色々な話をしていたので、私の母も2人の妹も坂巻さんと話したいと言ってくれ、父も一緒に坂巻さんを迎えに行って家で食事をしました。その日から坂巻さんはもう私の家族の一人です。今では私だけでなく、妹も坂巻さんとメールのやり取りをしています。

卒業後、私は日本で働いてみたいと思い、シンガポールの就職フェアに参加しました。その就職フェアは TOP CAREER といって、東南アジアで日本語を話せる学生たちが集まって大手会社と面接ができます。その結果私は4つの会社から内定をもらうことができました。父はもちろん、坂巻さんにも相談にのってもらった結果、現在働いている株式会社神戸製鋼所に決めることができました。日々の業務は海外の子会社の実績を集計することです。ほぼデスクワークです。毎日 OL という言葉を実感しています。

私は日本に親戚がほとんどいないのですが、寂しいときや悩んでいる時はいつも坂巻さんが支えてくれています。日本にいる私の親だと本当に思っています。仕事の話からプライベートの話までなんでも相談しています。私も坂巻さんも東京に住んでいるので、今どきの若者のスタイルでおしゃれなレストランで食事をしながらおしゃべりしています。コートを貸してくれることもあります。センスが良くて若者の心をよくご存じだと思います。

あの日もし、友達に連れられてアジ風に参加しなかったら、今の私はどうなっているのか想像もつきません。参加して本当によかったと思っています。そして坂巻さんや、アジ風の皆さんとこのような絆を続けていきたいと思っています。機会があればまた皆さんにお会いしたいです。

【元 I メイトの坂巻延子さんから】

家族ぐるみのおつきあい

タイから日本に留学してきて初めて会った佐山奈々さん…以来、常に彼女の眩しい若さに心地よさを感じてきたが、最近は生来持っていた彼女の逞しさ、強さに気付かされることが多い。流暢な彼女の日本語は、決してお父様が日本人であるという利点だけによるものではない。話すことが大好きな彼女なりの地道な努力に裏打ちされて



延子さんは母や妹達とも I メイトです

いる。日本での留學生活やその後の社会人としての日本企業での様々な問題点との対峙の姿勢も、自身をしっかり持ち、将来を見据えた対応策を考えているようだ。

タイの彼女のご家族との輪が広がっていったことは私にとって大きな喜びだ。2016 年 2 月のタマサート大学訪問の際には自宅に招いていただき、ご一家揃って市内を案内していただいた。また、その後北海道に留学していた彼女の妹さんが私の自宅に泊まって数日を過ごしたこともあった。2017 年のご家族揃っての来日時には、念願の再会を果たし、思い出のページを数多く増やした。当然のことながら今では「タイ」と聞くと、まず、「佐山家」を思い浮かべる。三人姉妹、それぞれが立派な社会人に成長された今も、ご両親の慈しみを忘れない暖かい家族である。

アジ風に参加して得た大きな宝物の一つでもある奈々ちゃんとの交流。お互いの呼び方もいつの間にか「佐山さん」から「奈々ちゃん」、「坂巻さん」から「おばさん」「おばちゃん」に変わった。いずれにしても「親しさ」は今なお進行形で深まっている。現在はお互いに東京在住だが、私としては元 I メイトとして満足のいく支援ができているとは言えない。LINEでの会話、時折会って話を聞くこと、応援の気持ちを私なりに表すことしかできないのが心苦しい。今回、I メイト交流の「もう?」「まだ?」と相反する思いが交錯する5年間を振り返る機会を与えられ、二人で育ててきた「親しさ」を大切にしていこうと思いを新たにしたい。

奈々ちゃん、これからも宜しくね!

留学時代の体験と思い出が、今また東京で頑張る源

グエン・タイン・マイ



こんにちは、貿易大学の元Iメイトのグエン・タイン・マイです。貿易大学の国際経済学部を卒業しました。2016年に東北大学へ留学し、コンピューターサイエンス学部に所属しました。留学するときはたくさんアジ風にお世話になりました。主なイベントとして、被災地訪問、東京で開催されるスピーチコンテスト、そして多くの集会にも参加させていただきました。毎回東京に来るとき、上さんや杉本さんのお家に泊まらせていただき、世界のいろんな話をしたり、池浦さんのうちでは久しぶりに多くのベトナムの調味料を食べさせていただきました。仙台では安川さんに大変お世話になりました。鳴子温泉に連れてもらったり、塩釜で美味しい寿司屋さんの「しらはた」に連れてもらって野球の開幕戦のチケットまでもらってしまったりました。色々な体験と思い出をいただきました。

2018年5月に貿易大学を卒業し、2019年4月から日本に来て、現在はIT企業でシステムエンジニアとして仕事をしています。東京で仕事をする間、いつか仙台に遊びに行くと思います。

システムエンジニアの仕事は卒業以前から始まり、日本に来た時はすでに2年ほどの経験を持っていました。最初はベトナムのIT会社で働きましたが、一年前から日系企業で働くことを決めて、就職活動を始めました。そのきっかけは次のような次第です。少々大きめのプロジェクトの担当になり、参加メンバーが多いので成果に対しての基準の認識がみんなそれぞれになり、プロジェクトマネージャーを務めた自分の品質の求め方はベトナム人メンバーに対して大きなストレスと生活バランスの崩れを与えていると言われ、納得することができませんでした。この基準は日本人にとって当たり前だと思いました。自分で確かめたく日本の中大規模のIT企業を目指し、システムエンジニアとして就職活動を始めました。そして、シンガポールで開催されたあるジョブフェアで採用され、現在の会社に入りました。

日本で社会人になってから約3ヶ月経った今、生活環境と考え方の変化について、話したいと思います。生活の変化について次の2点の変化がありました。まず、一人暮らしになりました。東北大留学の頃と違い、東京に住んでから生活費が気になるようになり、そして何よりも健康面には特に注意を注ぐようになりました。昔は遅くまで起きて勉強とか映画とかを見ましたけど、今はちゃんと運動し、昼ご飯はお弁当で健康を意識して生活することが習慣になり、自分が健康に生活していると思うと、より幸せを感じています。二つめは職場環境の変化です。日系企業と以前働いていたベトナム企業の文化には違いはありますが、自分は割と受け入れやすいタイプでありショックを受けず、自分にとって新たな考え方だったら、先輩と上司に理由を納得するまで聞き、

そして積極的に自分の考えを切り替えたり、指摘を受けることに努めましたので、職場ではあまりストレスを感じません。それに今の職場はとてもオープンな職場で、自分の意見を述べやすく、勉強する機会がたくさん与えられて、新しい知識をだんだん取り入れながら仕事を楽しんでいます。

考え方の変化について、主に2つあります。まず、家族の大切さをより感じるようになりました。ベトナムにいた頃、母にやってもらったことを当たり前を受けていましたが、ひとり暮らしを始めてからそれがどれほどありがたいことか実感できました。今でも毎日家族に電話し、自分の一日の報告、気づいたこと、頑張っていること、目標としていることを話しています。二つめは、日本企業では確かにプロジェクトマネジャーのレベルは高くベトナムの比ではないと納得できましたが、それぞれの文化的特徴があるので一概に良い悪いは言えないと気づきました。なので、なんというよりも脳がより柔軟になったかもしれません。

目標を立てながら実行するの繰り返しで、日々頑張っています。アジ風の活動に東京でまた加わることができるとうれしいです。



IT企業の広々としたオフィス

【編集部註】

2015 年春、アジ風訪問団が貿易大を訪問した時、グエン・タイン・マイさんは I メイト学生が大勢いる日本語クラブのリーダーでした。その後東北大へ留学に来たときは、被災地訪問に参加や、新春交流会のプレゼンテーションで二等を取るなど、常に目立つ存在でした。I メイト会員がご高齢で退会されたので、帰国後はしばらく連絡が途絶えていましたが、今春日本企業で働くことになって、また絆ができました。これからはアジ風会員としての活動に参加してくれることを大いに期待しています。

山田さんとの出会いと今の私

馮今（フォンジン）



日本留学から帰国してもうそろそろ一年になります。今振り返って見ると、日本にいた一年間は自分を変えるほど重要な一年でした。この大切な一年で、色々な方と出会い、色々な経験を身につけました。その中で、山田さんとの出会いは最も大切な一件です。

日本に来る前は、日本に関することはほとんど知りませんでした。最初にアニメを見て日本語の勉強を始めました。聞き取りは少しずつ進歩してはいたけど話すことはあまり出来ませんでした。山田さんと初めて会う前にすごく緊張していました。自分の日本語のレベルはまだちゃんと会話出来ませんでした。また、失礼があつてはいけないと思い、行く前に原稿を書いて、日本人の友達に添削してもらっていました。約束の日に、私は原稿を持って、鎌倉への電車の中でずっと

暗記していました。今でもあの緊張感をはっきり覚えています。

やっと山田さんと会い、そんなに緊張するのは必要でないことがわかりました。私の日本語があんなに下手だったにも関わらず、山田さんは気長にお話してくれました。一緒に大仏を見学して、お寺に参拝して、江ノ島に行って、歩きながら鎌倉の歴史や文化など色々な事を学びました。山田さんが話した事を全部理解出来なかったのも、自分は「はい」しか言えませんでした。でも、鎌倉の歴史と自然の魅力を強く感じていました。山田さんと一緒に鎌倉での観光は日本では初めてで、とても楽しかったです。その後、私は6回も鎌倉に行きました。鎌倉で最高の夕日を見、水族館へ遊びに行き、アジサイパワーを感じ、海の上の花火大会を見に行き、数々の素敵な思い出を鎌倉で作りました。山田さんとの出会いは、この数々の思い出の最初でした。

日本で過ごした一年は私にとって最も幸福な時期の一つでした。研究は楽ではないですが、仕事に直向きの生活もあります。研究室にいる間は研究と勉強しか考えていなく、研究室から離れたら自分が好きな事を自由にすることが出来ました。忙しい日々とゆとりある日々と共に、私を成長させました。一年の間に色々な方と出会い、話をしました。違う文化と経験を持つ人々は、考え方ややり方も随分違つと深く認識しました。その違いを認めて、知らなかった知識を身につけて、もっと遠くを眺めて、新しい自分になって行きます。それこそ留学する事の重要な価値のひとつです。それこそ留学の最も楽しみな事です。私はそう思っています。幸いなことに、私が日本で得た大切な経験は山田さんがずっと見守ってくださいました。

去年の8月に私は日本を離れて北京に戻りました。帰ったらすぐ実験と就職活動に没頭していました。毎日忙しく、日本語を勉強する余裕もありませんでした。毎回山田さんにメールを書いた時、自分の日本語のレベルがどんどん下手になったのを自分がありありと気付いていました。でも山田さんは相変わらず親切に応援してくれました。単調な毎日過ごす私にとって、山田さんの言葉と日本での大切な思い出は私が前に進む動力です。

7月に清華大学を卒業し、そして社会人になりました。また新たな困難と挑戦が出て来ると思いますが、怖くはありません。今までの経験はきっと私を支えると信じています。またいつの日か、日本で山田さんとアジアの新しい風の皆様と会えるのを楽しみにしています。

【元Iメイトの山田 稔さんから】

たくさん日本を見て何かを感じてもらおう楽しみ



Iメイトの馮今さんに初めて会ったのは藤沢駅でした。改札口に中々現われないのでちょっと心配したのですがやがて元気な姿に会えてホッとしたことを思い出します。江ノ島と鎌倉に行き、その後も桜の花見、富士山見物、紫陽花の花見など機会があれば一緒に出掛けました。理系専攻で東京工業大学に留学し、研究生活も忙しかったでしょうが、積極的に何かを吸収しようと一緒に行動してくれるジン

ちゃんに、沢山日本を見て何かを感じてもらう事が私にとっての楽しみでした。その甲斐があったのか、その後6回も鎌倉に来ていたとは。「違いを認めて・・・新しい自分になる」という留学の感想を聞き、感動です。私にとってもジンちゃんの日本理解に役に立てたことをうれしく思っています。

これからは深圳で不動産関係の会社で働くと聞きました。中国においても、日本で起こったバブル同様のこと心配されているようです。大学で学んで来た事がどの様に活かされるのかはちょっと分かりませんが、何事にも積極的なジンちゃんは今までの経験や学んだ事を活かし、どんな事があっても乗り越えて自分の人生を築いて行けると信じています。

当面は仕事を覚える為に忙しい日が続くと思います。日本語での意思疎通は問題無く出来ていたのも、これからも日本語を忘れ無いで、時間がある限りメールで近況など知らせてほしいです。

ジンちゃんは日本で乗り物酔いになった事が時々ありました。健康が一番大切です。毎日が楽しく過ごせる事を願っています。

7.

写真で見る
2018
年度の活動

2018年9月1日 総会



総会



「世界を舞台に英語で勝負」
講師 杉田敏さん



Iメイト・オブ・ザ・イヤー 中村泰寿さん



懇親会



2018年10月 インドネシア訪問



加納啓良理事長の講演
「米と茶の話—日本とインドネシアの食文化比較」
を聞く学生たち



私たちが書きました



車座はアジア的



浴衣を着てみました



口に合うかな？試してみよう



懇親会の後で

2018年11月 清華大学 I メイト交流会
(日本のお宅訪問)



興味津々に見まわす留学生たち



マンションの集会場で自己紹介



日本の住宅事情を説明



元 I メイト学生福山さんの家族と

2018年12月 西日本Iメイト交流会（料理）



何ができるのかな？



調味料は？



おいしかった！



ご飯を冷ましてます



感想を述べあう



児童館で童心に還る

2019年2月 新春交流会（スピーチコンテスト）



スピーチ参加者



一位の賞状を受ける
サルター・サエリムさん



「君のプレゼンはよかったよ」



「これにしようかな」



第一号奨学生クスマー
さんの民族舞踊



2019 年 4 月 **タマサート大学交流会**
(日本の古民家で文化体験)



挨拶をするタサニー先生（左端）



スライドを使って説明する
能登路雅子さん（保存会代表）



よく似合いますね



生け花の腕前は？



畳に座ってお弁当



タイ伝統の舞をする
マンリカーさん



自分のIメイトを紹介



新春交流会のスピーチをもとに話し合い



アン先生を囲んで



紙風船でバレーボール？



神戸 北野を散策



日本文学鑑賞文コンテスト
入賞者 3 人



王成先生から賞状を受ける
一位の鐘希君さん



参加賞の 10 人



スピーチはうまくいった？



やっぱり中華料理が一番!!



2019 年 6 月 西日本 I メイト交流会 (座禅体験)



座禅の前のランチも緊張気味



今宮神社手水舎で清めて



集中しています



座禅の中休みに
足を延ばして一息



境内の出店で
面白いものを見つけた?



大徳寺真珠庵の前で



東京勉強会（多文化共生を学ぶ）
講師は志賀玲子さん（賛助会員）



やさしい日本語とは？
奥山寿子理事



まずは自己紹介から



添削指導では質問がつぎつぎと



西日本勉強会（日本語文法を学ぶ）
講師は信岡麻理さん（正会員）



編集後記

昨年 2018 年5月のハノイ貿易大学訪問に参加し、同6月に会員になりました。

「今年の『別冊 I メイト便り』の編集を手伝ってほしい」と言われていれば、できませんと即答したはずですが、ある DTP ソフトウェアについての質問があり、よく分からないまま適当な受け答えをしていたら、編集委員の方々の熱意にのまれ、そのソフトウェアを使っただけの編集作業に携わることになっておりました。

編集経験のない素人が参加して大丈夫なのかと自身思っていました。聞けば、別冊の制作費を少しでも低く抑えたいので、従来の外注をやめて自分たちで編集できないか、というのが最大の理由とか。私の工数の提供は何の問題もなかったもので、望まれる品質には届きませんとお断りして作業した次第です。

掲載された方々からの原稿や写真をまとめていますと、それぞれの I メイトの交流が、基本的な草の根の活動であることがあらためて伝わってきました。これからも I メイト交流を発展させていくことが、本当に大事なことだと思います。

関係の皆さまのご協力に感謝いたします。

吉田 哲

足尾銅山の植樹に参加し、I メイト学生達とはげ山の斜面に苗木を植えている折「苗木は押さえつけず柔らかく植えてくださいよ」と伝授され、「雑木林は交じり合ってたたくましく育ちます」と頼もしい声を聞いた時、若木を伸ばそうとしている I メイト交流を重ねたものでした。

今年六月、まだたっぷり雪の付いた白山登山をあきらめ、せめて白山を望みたいと、向かい合う小峰へ登りました。日本の森林特有の、雑木林と植林杉が交互をなす深い山です。雑木林は密集してそれこそ遅く繁り、杉はスンと直立していると思いきや、植林の杉はどの木もどの木もすべて根元の太い幹が斜面に沿って U の字に曲がり、それから天を差して直立しているのです。雪深い山ゆえ、若木は毎年毎年何年も、雪のある間はその重さを受け入れ、やがて自力で真っ直ぐに伸びてゆくのだらうと杉の根元を見続けました。

『別冊』15 号の編集に参加し、学生の原稿に「留学の楽や苦」の文言に出合った折、あの杉を思い出しました。プレゼンテーションや原稿の文中にいつも、感謝や前向きな決意の溢れる I メイト学生には、交流会で会う折に見る笑顔の陰にも、きっと見えぬ努力があるのでしょ。

ご寄稿下さった皆様、掌にとり読んで下さる方々へ感謝を抱きつつ、I メイト交流がオアシスであることを願っています。

原谷 洋美

M E M O

別冊 I メイト便り 第 15 号

「I メイト交流の愉しみ」

ーアジア風に乗って I メイト交流は広がるー

☐発行日 2019 年 9 月 21 日

☐発行者 認定 NPO 法人

アジアの新しい風

〒154-0016

東京都世田谷区弦巻 2-18-22-414

H P : <http://www.npo-asia.org>

E-mail : new-wind2006@npo-asia.org
